

(19) **日本国特許庁(JP)**

(12) **公開特許公報(A)**

(11)特許出願公開番号

特開2017-47967

(P2017-47967A)

(43) 公開日 平成29年3月9日(2017.3.9)

(51) Int.Cl.

F I

テーマコード (参考)

B65D 5/54 (2006.01)

B65D 5/54 3010

3E060

B65D 5/52 (2006.01)

B 6 5 D 5/52 J

審査請求 未請求 請求項の数 20 O L (全 37 頁)

(21) 出願番号 特願2015-175133 (P2015-175133)

(22) 出願日 平成27年9月4日(2015.9.4)

(71) 出願人 000129493

株式会社クラウン・パッケージ
愛知県小牧市小針三丁目67番地

(74) 代理人 100093931

弁理士 長屋 直樹

(72) 発明者 比嘉 紀美子

愛知県小牧市小針三丁目67番地 株式会社
クラウン・パッケージ内

Fターム(参考)	3E060	AA03	AB05	BA03	BB03	BC02
		CB02	CB16	CE04	CE07	CE12
		CE22	CF05	CG03	DA11	DA14

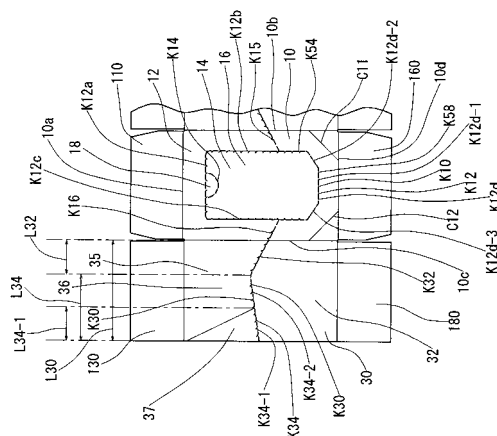
(54) 【発明の名称】 包装箱

(57) 【要約】

【課題】側面に切目線が形成された包装箱において、被収納物を収納した状態の包装箱を落下させた場合でも該切目線の破断を防ぐことができる包装箱を提供する。

【解決手段】正面部１０において、正面部１０の底面部５０側で左側面部２０側の角部を含む領域である角部領域ＫＲ１１に正面部１０の底面部５０側の辺部１０ｄの方向に対して傾斜した罫線Ｃ１１が形成されるとともに、正面部１０の底面部５０側で右側面部３０側の角部を含む領域である角部領域ＫＲ１２に正面部１０の辺部１０ｄの方向に対して傾斜した罫線Ｃ１２が形成され、切目線Ｋ１２が、罫線Ｃ１１を挟んで角部領域ＫＲ１１における角部とは反対側に形成されるとともに、罫線Ｃ１２を挟んで角部領域ＫＲ１２における角部とは反対側に形成されている。

【選択図】図 10



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

底面部（５０）と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなすスリーブ状部で、少なくとも３つ以上の側面部（１０、２０、３０、４０）を有するスリーブ状部（５）と、スリーブ状部の上端から連設された蓋部（１２０、１３０）とを有する包装箱であって、

スリーブ状部における少なくとも１つの側面部である特定側面部において、特定側面部の底面部側の角部を含む領域である角部領域（ＫＲ１１、ＫＲ１２）に、特定側面部の底面部側の辺部の方向に対して傾斜した折曲げ用の罫線（Ｃ１１、Ｃ１２）が形成され、

該罫線は、特定側面部において角部を形成する２つの辺部で、底面部側の辺部である第１辺部と該特定側面部と隣接する他の側面部側の辺部である第２辺部において、第１辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第１途中位置（Ｐ１１、Ｐ１２）と、第２辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第２途中位置（Ｑ１１、Ｑ１２）の間の位置に、第１途中位置と第２途中位置を結ぶ方向に形成され、

特定側面部には切目線（Ｋ１２）が設けられ、該罫線が形成された角部領域における角部と該切目線とは、該罫線を挟んで互いに反対側に形成されていることを特徴とする包装箱。

【請求項 2】

罫線が、特定側面部における底面部側の角部で、特定側面部と隣接する一方の側面部である第１隣接側面部（２０）側の角部を含む角部領域（ＫＲ１１）と、特定側面部と隣接する他方の側面部である第２隣接側面部（３０）側の角部を含む角部領域（ＫＲ１２）のそれぞれに形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の包装箱。

【請求項 3】

切目線における罫線と対向した部分（Ｋ１２ｄ－２、Ｋ１２ｄ－３）は、横方向において、第２辺部側にいくに従い、特定側面部の底面部側の辺部からの距離が長くなるように形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の包装箱。

【請求項 4】

切目線が、特定側面部内に周状に形成され、

切目線において底面部側に形成された底面部側切目線（Ｋ１２ｄ）が、

横方向に形成された底面部側第１切目線（Ｋ１２ｄ－１）と、

第１切目線の第１隣接側面部側の端部から形成され、第１隣接側面部側にいくに従い、特定側面部の底面部側の辺部からの距離が長くなるように形成された底面部側第２切目線（Ｋ１２ｄ－２）と、

第１切目線の第２隣接側面部側の端部から形成され、第２隣接側面部側にいくに従い、特定側面部の底面部側の辺部からの距離が長くなるように形成された底面部側第３切目線（Ｋ１２ｄ－３）と、を有することを特徴とする請求項 2 に記載の包装箱。

【請求項 5】

第２切目線と第３切目線とは直線状に形成されていることを特徴とする請求項 4 に記載の包装箱。

【請求項 6】

切目線が、

第２切目線の第１切目線とは反対側の端部から連設され、特定側面部の第１隣接側面部側の辺部と略平行に形成された第１隣接側面部側切目線（Ｋ１２ｂ）と、

第３切目線の第１切目線とは反対側の端部から連設され、特定側面部の第２隣接側面部側の辺部と略平行に形成された第２隣接側面部側切目線（Ｋ１２ｃ）と、

第１隣接側面部側切目線の第２切目線とは反対側の端部と第２隣接側面部側切目線の第３切目線とは反対側の端部間に形成された上側切目線（Ｋ１２ａ）と、を有することを特徴とする請求項 4 又は 5 に記載の包装箱。

【請求項 7】

１つの角部領域において、角部領域における角部から第１途中位置までの長さ、角部領

10

20

30

40

50

域における角部から第2途中位置までの長さとは略同一であることを特徴とする請求項1又は2又は3又は4又は5又は6に記載の包装箱。

【請求項8】

切目線が、罫線と平行で、罫線を挟んで該罫線が形成された角部領域の角部と反対側の仮想線(J11、J12)よりも該角部と反対側に形成され、

該仮想線は、該仮想線と平行な該罫線とは、第1途中位置を通り第2辺部と平行な仮想線と第2途中位置を通り第1辺部と平行な仮想線の交点(W11a、W12a)から罫線までの長さの半分の長さを介して離れていることを特徴とする請求項1又は2又は3又は4又は5又は6又は7に記載の包装箱。

【請求項9】

スリーブ状部において、特定側面部と隣接する他の側面部における底面部で特定側面部側の角部を含む領域である角部領域は、罫線が形成されていない罫線未形成領域であり、

底面部における特定側面部側の角部を含む領域である角部領域は、罫線が形成されていない罫線未形成領域であることを特徴とする請求項1又は2又は3又は4又は5又は6又は7又は8に記載の包装箱。

【請求項10】

罫線が特定側面部における内側の面に形成されていることを特徴とする請求項1又は2又は3又は4又は5又は6又は7又は8又は9に記載の包装箱。

【請求項11】

底面部(50)と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなすスリーブ状部で、4つの側面部(10、20、30、40)を有するスリーブ状部(5)と、スリーブ状部の上端から連設された蓋部(120、130)とを有する包装箱であって、

4つの側面部における1つである正面部において、正面部の底面部側で正面部に隣接する側面部である左側面部(20)側の角部である第1角部を含む領域である第1角部領域(KR11)に正面部の底面部側の辺部の方向に対して傾斜した折曲げ用の第1罫線(C11)が形成されるとともに、正面部の底面部側で正面部に隣接する側面部である右側面部(30)側の角部である第2角部を含む領域である第2角部領域(KR12)に正面部の底面部側の辺部の方向に対して傾斜した折曲げ用の第2罫線(C12)が形成され、

第1罫線は、正面部において第1角部を形成する2つの辺部で、底面部側の辺部である第1辺部と正面部と隣接する左側面部側の辺部である第2辺部において、第1辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第1途中位置(P11)と、第2辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第2途中位置(Q11)の間の位置に、第1途中位置と第2途中位置を結ぶ方向に形成され、

第2罫線は、正面部において第2角部を形成する2つの辺部で、底面部側の辺部である第1辺部と正面部と隣接する右側面部側の辺部である第3辺部において、第1辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置で第1途中位置よりも右側面側の第3途中位置(P12)と、第3辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第4途中位置(Q12)の間の位置に、第3途中位置と第4途中位置を結ぶ方向に形成され、

正面部には切目線(K12)が設けられ、該第1罫線が形成された角部領域における角部と該切目線とは、該第1罫線を挟んで互いに反対側に形成され、該第2罫線が形成された角部領域における角部と該切目線とは、該第2罫線を挟んで互いに反対側に形成され、

該切目線が、正面部内に周状に形成され、

切目線において底面部側に形成された底面部側切目線(K12d)が、

横方向に形成された横方向切目線(K12d-1)と、

横方向切目線の左側面部側の端部から形成され、左側面部側にいくに従い正面部の底面部側の辺部からの距離が長くなるように、正面部の底面部側の辺部の方向に対して傾斜して形成された第1傾斜切目線(K12d-2)と、

横方向切目線の右側面部側の端部から形成され、右側面部側にいくに従い正面部の底面部側の辺部からの距離が長くなるように、正面部の底面部側の辺部の方向に対して傾斜して形成された第2傾斜切目線(K12d-3)と、を有することを特徴とする包装箱。

10

20

30

40

50

【請求項 1 2】

第 1 傾斜切目線と第 2 傾斜切目線が、直線状に形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の包装箱。

【請求項 1 3】

切目線が、

第 1 傾斜切目線の横方向切目線とは反対側の端部から連設され、正面部の左側面部側の辺部と略平行に形成された左側面部側切目線（K 1 2 b）と、

第 2 傾斜切目線の横方向切目線とは反対側の端部から連設され、正面部の右側面部側の辺部と略平行に形成された右側面部側切目線（K 1 2 c）と、

左側面部側切目線の第 1 傾斜切目線とは反対側の端部と右側面部側切目線の第 2 傾斜切目線とは反対側の端部間に形成された上側切目線（K 1 2 a）と、を有することを特徴とする請求項 1 1 又は 1 2 に記載の包装箱。

10

【請求項 1 4】

第 1 角部領域において、第 1 角部領域における角部から第 1 途中位置までの長さ、第 1 角部領域における角部から第 2 途中位置までの長さとが略同一であり、

第 2 角部領域において、第 2 角部領域における角部から第 3 途中位置までの長さ、第 2 角部領域における角部から第 4 途中位置までの長さとが略同一であることを特徴とする請求項 1 1 又は 1 2 又は 1 3 に記載の包装箱。

【請求項 1 5】

切目線が、第 1 罫線と平行で、第 1 罫線を挟んで該第 1 罫線が形成された第 1 角部領域の第 1 角部と反対側の第 1 仮想線（J 1 1）よりも該第 1 角部と反対側に形成されるとともに、第 2 罫線と平行で、第 2 罫線を挟んで該第 2 罫線が形成された第 2 角部領域の第 2 角部と反対側の第 2 仮想線（J 1 2）よりも該第 2 角部と反対側に形成され、

20

該第 1 仮想線は、該第 1 罫線とは、第 1 途中位置を通り第 2 辺部と平行な仮想線と第 2 途中位置を通り第 1 辺部と平行な仮想線の交点（W 1 1 a）から第 1 罫線までの長さの半分の長さを介して離れており、

該第 2 仮想線は、該第 2 罫線とは、第 3 途中位置を通り第 3 辺部と平行な仮想線と第 4 途中位置を通り第 1 辺部と平行な仮想線の交点（W 1 2 a）から第 2 罫線までの長さの半分の長さを介して離れていることを特徴とする請求項 1 1 又は 1 2 又は 1 3 又は 1 4 に記載の包装箱。

30

【請求項 1 6】

スリーブ状部において、左側面部における底面側で正面部側の角部を含む領域である角部領域と右側面部における底面側で正面部側の角部を含む領域である角部領域は、罫線が形成されていない罫線未形成領域であり、

底面部における正面部側の角部を含む領域である角部領域は、罫線が形成されてない罫線未形成領域であることを特徴とする請求項 1 1 又は 1 2 又は 1 3 又は 1 4 又は 1 5 に記載の包装箱。

【請求項 1 7】

左側面側切目線と正面部の左側面側の辺部間に形成された左第 1 切目線（K 1 5）と、

右側面側切目線と正面部の右側面側の辺部間に形成された右第 1 切目線（K 1 6）と、

40

左側面部における正面部側の辺部と正面部と相対する側面部である背面部側の辺部間に形成された第 2 切目線（K 2 0）と、

右側面部における正面部側の辺部と背面部側の辺部間に形成された第 3 切目線（K 3 0）と、

背面部における左側面側の辺部と右側面側の辺部間に形成された第 4 切目線（K 4 0）とを有し、

左第 1 切目線の左側面側切目線側の端部から右第 1 切目線の右側面側切目線側の端部まで連続して形成され、

背面部においては、背面部の第 4 切目線よりも下側の領域である下背面部（4 2）に、第 4 切目線から連設された一対の切目線（K 4 4、K 4 5）が設けられ、背面部の第 4 切

50

目線よりも上側の領域である上背部部（４５）に、背部部の左側面側上端の角部である第３角部と第４切目線の左側面側の端部から右側面側の端部までの途中位置である第５途中位置の間の位置に第３角部と第５途中位置とを結ぶ方向に第１折れ線（Ｃ４２）が形成されるとともに、背部部の右側面側上端の角部である第４角部と第４切目線の右側面側の端部から左側面側の端部までの途中位置で第５途中位置よりも右側面側である第６途中位置の間の位置に第４角部と第６途中位置とを結ぶ方向に第２折れ線（Ｃ４３）が形成され、第１折れ線（Ｃ４２）と第２折れ線（Ｃ４３）とが、第４切目線側にいくに従い第１折れ線と第２折れ線間の長さが短くなるように左右線対称に形成され、第１折れ線の下端と第２折れ線の下端は左右方向に間隔を介して設けられ、上背部部が、第１折れ線と第２折れ線間の領域である中央領域（４６）と、第１折れ線よりも左側面側の領域である左側領域（４７）と、第２折れ線よりも右側面側の領域である右側領域（４８）とを有し、

左側面部においては、第２切目線が、左側面部の背面側の辺部から形成された第２切目線主構成部（Ｋ２４）を有し、左側面部の第２切目線よりも上側の領域である上左側面部（２５）に、第３折れ線（Ｃ２１）が、左側面部の背面側上端の角部である第５角部と第２切目線主構成部の背面側の端部から正面側の端部への途中位置である第７途中位置の間の位置に、第５角部と第７途中位置とを結ぶ方向に形成され、第３折れ線は、下側にいくほど正面側となるように形成され、第２切目線主構成部は、正面側にいくほど上側となるように形成され、

右側面部においては、第３切目線が、右側面部の背面側の辺部から形成された第３切目線主構成部（Ｋ３４）を有し、右側面部の第３切目線よりも上側の領域である上右側面部（３５）に、第４折れ線（Ｃ３１）が、右側面部の背面側上端の角部である第６角部と第３切目線主構成部の背面側の端部から正面側の端部への途中位置である第８途中位置の間の位置に、第６角部と第８途中位置とを結ぶ方向に形成され、第４折れ線は、下側にいくほど正面側となるように形成され、第３切目線主構成部は、正面側にいくほど上側となるように形成され、

正面部に周状に形成された切目線を破断して、正面部に周状に形成された切目線により囲まれた領域である開口蓋部（１４）を取り除くことにより、正面部に開口部（１９）が形成され、

正面部から開口蓋部を取り除いた状態において、下背部部における該一对の切目線間の領域を外側から押して、中央領域の下端に指をひっかけ、中央領域の下端を外側にひっばることにより、左側領域が中央領域に対して第１折れ線を介して折曲するとともに、右側領域が中央領域に対して第２折れ線を介して折曲して、第４切目線における右側領域と下背部部間の切目線と左側領域と下背部部間の切目線とが破断し、上左側面部における第３折れ線よりも背面側の領域である第１背面側領域（２７）が第３折れ線を介して内側に回動して第２切目線主構成部における第１背面側領域と左側面部の第２切目線よりも下側の領域である下左側面部（２２）間の切目線が破断するとともに、上右側面部における第４折れ線よりも背面側の領域である第２背面側領域（３７）が第４折れ線を介して内側に回動して第３切目線における第２背面側領域と右側面部の第３切目線よりも下側の領域である下右側面部（３２）間の切目線が破断し、

さらに、中央領域の下端を上方にひっばることにより、第２切目線主構成部における第３折れ線よりも正面側の領域である第１正面側領域（２６）と下左側面部間の切目線が破断するとともに、第３切目線主構成部における第４折れ線よりも正面側の領域である第２正面側領域（３６）と下右側面部間の切目線が破断し、

さらに、第２切目線における第２切目線主構成部よりも正面側の切目線と第３切目線における第３切目線主構成部よりも正面側の切目線を破断し、左第１切目線と右第１切目線を破断することにより、正面部における開口蓋部以外の領域である枠状部（１２）の左第１切目線及び右第１切目線よりも上側の領域である上正面部（１５）と上左側面部と上右側面部と上背部部と蓋部とからなる上側構成部（Ａ－２）が取り除かれることを特徴とする請求項１１又は１２又は１３又は１４又は１５又は１６に記載の包装箱。

【請求項１８】

10

20

30

40

50

第 2 切目線において、第 2 切目線主構成部の正面側の端部から左側面部の正面側の辺部まで形成された切目線（K 2 2）が、正面側にいくほど下側となるように形成され、第 3 切目線において、第 3 切目線主構成部の正面側の端部から右側面部の正面側の辺部まで形成された切目線（K 3 2）が、正面側にいくほど下側となるように形成されていることを特徴とする請求項 17 に記載の包装箱。

【請求項 19】

第 4 切目線における左側領域と下背面部間の切目線が、左側面部側にいくほど上側となるように形成され、第 4 切目線における右側領域と下背面部間の切目線が、右側面部側にいくほど上側となるように形成されていることを特徴とする請求項 17 又は 18 に記載の包装箱。

10

【請求項 20】

第 2 切目線と第 3 折れ線又は第 3 折れ線の延長線の接点から背面側の切目線である第 1 部分構成部（K 2 4 - 1）の左側面部の下辺に対する傾斜角度は、第 4 切目線における右側領域と下背面部間の切目線の背面部の下辺に対する傾斜角度と略同一であり、

第 3 切目線と第 4 折れ線又は第 4 折れ線の延長線の接点から背面側の切目線である第 2 部分構成部（K 3 4 - 1）の右側面部の下辺に対する傾斜角度は、第 4 切目線における左側領域と下背面部間の切目線の背面部の下辺に対する傾斜角度と略同一であることを特徴とする請求項 19 に記載の包装箱。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

20

【0001】

本発明は、包装箱に関するものであり、特に、包装箱の側面に切目線が形成されたものに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来より、包装箱の側面に切目線を形成し切目線を破断することにより開口部を形成するものとして特許文献 1、特許文献 2 に記載のものが存在する。

【0003】

例えば、特許文献 1 のカートンにおいては、トップパネル 13 からサイドパネル 15 を経てベースパネル 16 にミシン目のような脆弱化のためのライン 25 が設けられ、ライン 25 を破断することにより形成される開口から商品を取り出すことができる。

30

【0004】

また、特許文献 2 の梱包用紙箱においては、前面板 1 に枠状の切取線 2 が設けられ、該切取線 2 を破断することにより陳列窓兼用取出口が形成される。

【0005】

また、特許文献 3 の紙箱 300 においては、正面板 12 と背面板 14 の上端寄りに開封線 100 が設けられ、左側面板 11 と右側面板 13 には、開封線 100 と接続された易切断線 21 が設けられることにより、切目線が周状に形成され、左側面板 11 と右側面板 13 のそれぞれにおいて、易切断線 21 からは 2 本の押込み補助線 22 が上方に広がるように形成されている。特許文献 3 の紙箱 300 を開封するには、左側面板 11 又は右側面板 13 の易切断線 21 の中央を指で押して、易切断線 21 を破断し、易切断線 21 で切断された左側面板 11 又は右側面板 13 の上の部分の下端に指を入れて、持ち上げるように引っ張ることにより、正面板 12 と背面板 14 の開封線 100 が切断され、その後、右側面板 13 又は左側面板 11 の易切断線 21 を切断する。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献 1】特表 2005 - 535522 号公報

【特許文献 2】実開昭 58 - 19919 号公報

【特許文献 3】特開 2015 - 13652 号公報

50

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

しかし、包装箱の側面に形成された切目線が該側面の下端近くにまで形成されている場合には、包装箱を落下させた場合に、該切目線の一部が破断してしまう可能性があるという問題があった。

【0008】

特に、特許文献1のカートンにおいては、ライン25が端部折り曲げ部21、22の近くにまで形成されていて、被収納物（特許文献1では缶31）を収納した状態のカートンを端部折り曲げ部21、22側を下側にして比較的高い位置から落下させた場合に、落下の衝撃でライン25（特に、ライン25における端部折り曲げ部21、22に近い部分）が破断してしまうおそれがある。

10

【0009】

また、特許文献2の梱包用紙箱においても、切取線2が前面板1の辺部近くに形成されているので、被収納物（特許文献2ではロール巻き障子紙イ）を収納した状態の紙箱を比較的高い位置から落下させた場合に、落下の衝撃で切取線2（特に、切取線2において、落下の際に接地面に近い側の部分）が破断してしまうおそれがある。

【0010】

また、特許文献3の紙箱300においても、開封線100や易切断線21の少なくとも一部が底面部17に近い位置に形成されている場合には、被収納物を収納した状態の紙箱300を底面部17側を下側にして比較的高い位置から落下させた際に、開封線100や易切断線21における底面部17に近い部分が破断してしまうおそれがある。

20

【0011】

そこで、本発明は、側面に切目線が形成された包装箱において、被収納物を収納した状態の包装箱を落下させた場合でも該切目線の破断を防ぐことができる包装箱を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0012】

本発明は上記問題点を解決するために創作されたものであって、第1には、底面部（50）と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなすスリーブ状部で、少なくとも3つ以上の側面部（10、20、30、40）を有するスリーブ状部（5）と、スリーブ状部の上端から連設された蓋部（120、130）とを有する包装箱であって、スリーブ状部における少なくとも1つの側面部である特定側面部において、特定側面部の底面部側の角部を含む領域である角部領域（KR11、KR12）に、特定側面部の底面部側の辺部の方向に対して傾斜した折曲げ用の罫線（C11、C12）が形成され、該罫線は、特定側面部において角部を形成する2つの辺部で、底面部側の辺部である第1辺部と該特定側面部と隣接する他の側面部側の辺部である第2辺部において、第1辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第1途中位置（P11、P12）と、第2辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第2途中位置（Q11、Q12）の間の位置に、第1途中位置と第2途中位置を結ぶ方向に形成され、特定側面部には切目線（K12）が設けられ、該罫線が形成された角部領域における角部と該切目線とは、該罫線を挟んで互いに反対側に形成されていることを特徴とする。

30

40

【0013】

第1の構成においては、包装箱を落下させた場合に、折曲げ用の罫線が設けられているので、落下の衝撃により罫線を介して特定側面部が折れ曲がり、罫線を介して特定側面部が折れ曲がることにより落下の衝撃を吸収することから、切目線の破断を防止することができる。

【0014】

また、第2には、上記第1の構成において、罫線が、特定側面部における底面部側の角部で、特定側面部と隣接する一方の側面部である第1隣接側面部（20）側の角部を含む

50

角部領域 (K R 1 1) と、特定側面部と隣接する他方の側面部である第 2 隣接側面部 (3 0) 側の角部を含む角部領域 (K R 1 2) のそれぞれに形成されていることを特徴とする。

【 0 0 1 5 】

また、第 3 には、上記第 1 又は第 2 の構成において、切目線における罫線と対向した部分 (K 1 2 d - 2 、 K 1 2 d - 3) は、横方向において、第 2 辺部側にいくに従い、特定側面部の底面部側の辺部からの距離が長くなるように形成されていることを特徴とする。よって、切目線における罫線と対向した部分と罫線との間の距離をなるべく長く確保することができ、包装箱を落下させて罫線を介して特定側面部が折曲した場合の影響を小さくすることができ、切目線の破断を防止することができる。

10

【 0 0 1 6 】

また、第 4 には、上記第 2 の構成において、切目線が、特定側面部内に周状に形成され、切目線において底面部側に形成された底面部側切目線 (K 1 2 d) が、横方向に形成された底面部側第 1 切目線 (K 1 2 d - 1) と、第 1 切目線の第 1 隣接側面部側の端部から形成され、第 1 隣接側面部側にいくに従い、特定側面部の底面部側の辺部からの距離が長くなるように形成された底面部側第 2 切目線 (K 1 2 d - 2) と、第 1 切目線の第 2 隣接側面部側の端部から形成され、第 2 隣接側面部側にいくに従い、特定側面部の底面部側の辺部からの距離が長くなるように形成された底面部側第 3 切目線 (K 1 2 d - 3) と、を有することを特徴とする。

20

【 0 0 1 7 】

よって、第 2 切目線と罫線との間の距離をなるべく長く確保することができるとともに、第 3 切目線と罫線との間の距離をなるべく長く確保することができ、包装箱を落下させて罫線を介して特定側面部が折曲した場合の影響を小さくすることができ、切目線の破断を防止することができる。

【 0 0 1 8 】

また、第 5 には、上記第 4 の構成において、第 2 切目線と第 3 切目線とは直線状に形成されていることを特徴とする。よって、第 2 切目線と第 3 切目線が斜め下方に膨出した円弧状の場合に比べて、罫線との距離を長く確保することができる。

【 0 0 1 9 】

また、第 6 には、上記第 4 又は第 5 の構成において、切目線が、第 2 切目線の第 1 切目線とは反対側の端部から連設され、特定側面部の第 1 隣接側面部側の辺部と略平行に形成された第 1 隣接側面部側切目線 (K 1 2 b) と、第 3 切目線の第 1 切目線とは反対側の端部から連設され、特定側面部の第 2 隣接側面部側の辺部と略平行に形成された第 2 隣接側面部側切目線 (K 1 2 c) と、第 1 隣接側面部側切目線の第 2 切目線とは反対側の端部と第 2 隣接側面部側切目線の第 3 切目線とは反対側の端部間に形成された上側切目線 (K 1 2 a) と、を有することを特徴とする。

30

【 0 0 2 0 】

また、第 7 には、上記第 1 から第 6 までのいずれかの構成において、1 つの角部領域において、角部領域における角部から第 1 途中位置までの長さと、角部領域における角部から第 2 途中位置までの長さとが略同一であることを特徴とする。よって、罫線が特定側面部の底面部側の辺部に対して略 4 5 度となっているので、効果的に衝撃を吸収することができる。

40

【 0 0 2 1 】

また、第 8 には、上記第 1 から第 7 までのいずれかの構成において、切目線が、罫線と平行で、罫線を挟んで該罫線が形成された角部領域の角部と反対側の仮想線 (J 1 1 、 J 1 2) よりも該角部と反対側に形成され、

該仮想線は、該仮想線と平行な該罫線とは、第 1 途中位置を通り第 2 辺部と平行な仮想線と第 2 途中位置を通り第 1 辺部と平行な仮想線の交点 (W 1 1 a 、 W 1 2 a) から罫線までの長さの半分の長さを介して離れていることを特徴とする。

【 0 0 2 2 】

50

よって、切目線は、罫線と所定距離離れて形成されているので、包装箱が落下して特定側面部が罫線を介して折れ曲がっても、切目線の破断をより確実に防止することができる。

【 0 0 2 3 】

また、第 9 には、上記第 1 から第 8 までのいずれかの構成において、スリーブ状部において、特定側面部と隣接する他の側面部における底面部側で特定側面部側の角部を含む領域である角部領域は、罫線が形成されていない罫線未形成領域であり、

底面部における特定側面部側の角部を含む領域である角部領域は、罫線が形成されてない罫線未形成領域であることを特徴とする。よって、罫線が形成された角部の強度を保つことができる。

【 0 0 2 4 】

また、第 10 には、上記第 1 から第 9 までのいずれかの構成において、罫線が特定側面部における内側の面に形成されていることを特徴とする。

【 0 0 2 5 】

また、第 11 には、底面部 (5 0) と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなすスリーブ状部で、4つの側面部 (1 0 、 2 0 、 3 0 、 4 0) を有するスリーブ状部 (5) と、スリーブ状部の上端から連設された蓋部 (1 2 0 、 1 3 0) とを有する包装箱であって、4つの側面部における1つである正面部において、正面部の底面部側で正面部に隣接する側面部である左側面部 (2 0) 側の角部である第 1 角部を含む領域である第 1 角部領域 (K R 1 1) に正面部の底面部側の辺部の方向に対して傾斜した折曲げ用の第 1 罫線 (C 1 1) が形成されるとともに、正面部の底面部側で正面部に隣接する側面部である右側面部 (3 0) 側の角部である第 2 角部を含む領域である第 2 角部領域 (K R 1 2) に正面部の底面部側の辺部の方向に対して傾斜した折曲げ用の第 2 罫線 (C 1 2) が形成され、第 1 罫線は、正面部において第 1 角部を形成する2つの辺部で、底面部側の辺部である第 1 辺部と正面部と隣接する左側面部側の辺部である第 2 辺部において、第 1 辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第 1 途中位置 (P 1 1) と、第 2 辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第 2 途中位置 (Q 1 1) の間の位置に、第 1 途中位置と第 2 途中位置を結ぶ方向に形成され、第 2 罫線は、正面部において第 2 角部を形成する2つの辺部で、底面部側の辺部である第 1 辺部と正面部と隣接する右側面部側の辺部である第 3 辺部において、第 1 辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置で第 1 途中位置よりも右側面側の第 3 途中位置 (P 1 2) と、第 3 辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第 4 途中位置 (Q 1 2) の間の位置に、第 3 途中位置と第 4 途中位置を結ぶ方向に形成され、正面部には切目線 (K 1 2) が設けられ、該第 1 罫線が形成された角部領域における角部と該切目線とは、該第 1 罫線を挟んで互いに反対側に形成され、該第 2 罫線が形成された角部領域における角部と該切目線とは、該第 2 罫線を挟んで互いに反対側に形成され、該切目線が、正面部内に周状に形成され、切目線において底面部側に形成された底面部側切目線 (K 1 2 d) が、横方向に形成された横方向切目線 (K 1 2 d - 1) と、横方向切目線の左側面部側の端部から形成され、左側面部側にいくに従い正面部の底面部側の辺部からの距離が長くなるように、正面部の底面部側の辺部の方向に対して傾斜して形成された第 1 傾斜切目線 (K 1 2 d - 2) と、横方向切目線の右側面部側の端部から形成され、右側面部側にいくに従い正面部の底面部側の辺部からの距離が長くなるように、正面部の底面部側の辺部の方向に対して傾斜して形成された第 2 傾斜切目線 (K 1 2 d - 3) と、を有することを特徴とする。

【 0 0 2 6 】

第 11 の構成においては、包装箱を落下させた場合に、折曲げ用の第 1 罫線と第 2 罫線が設けられているので、落下の衝撃により罫線を介して正面部が折れ曲がり、罫線を介して正面部が折れ曲がることにより落下の衝撃を吸収することから、底面部側切目線の破断を防止することができる。

【 0 0 2 7 】

また、第 12 には、上記第 11 の構成において、第 1 傾斜切目線と第 2 傾斜切目線が、

直線状に形成されていることを特徴とする。よって、第1傾斜切目線と第2傾斜切目線とが斜め下方に膨出した円弧状の場合に比べて、罫線との距離を長く確保することができる。

【0028】

また、第13には、上記第11又は第12の構成において、切目線が、第1傾斜切目線の横方向切目線とは反対側の端部から連設され、正面部の左側面部側の辺部と略平行に形成された左側面部側切目線（K12b）と、第2傾斜切目線の横方向切目線とは反対側の端部から連設され、正面部の右側面部側の辺部と略平行に形成された右側面部側切目線（K12c）と、左側面部側切目線の第1傾斜切目線とは反対側の端部と右側面部側切目線の第2傾斜切目線とは反対側の端部間に形成された上側切目線（K12a）と、を有する

10

【0029】

また、第14には、上記第11から第13までのいずれかの構成において、第1角部領域において、第1角部領域における角部から第1途中位置までの長さ、第1角部領域における角部から第2途中位置までの長さとが略同一であり、第2角部領域において、第2角部領域における角部から第3途中位置までの長さ、第2角部領域における角部から第4途中位置までの長さとが略同一であることを特徴とする。よって、第1罫線や第2罫線が正面部の底面部側の辺部に対して略45度となっているので、効果的に衝撃を吸収することができる。

【0030】

20

また、第15には、上記第11から第14までのいずれかの構成において、切目線が、第1罫線と平行で、第1罫線を挟んで該第1罫線が形成された第1角部領域の第1角部と反対側の第1仮想線（J11）よりも該第1角部と反対側に形成されるとともに、第2罫線と平行で、第2罫線を挟んで該第2罫線が形成された第2角部領域の第2角部と反対側の第2仮想線（J12）よりも該第2角部と反対側に形成され、該第1仮想線は、該第1罫線とは、第1途中位置を通り第2辺部と平行な仮想線と第2途中位置を通り第1辺部と平行な仮想線の交点（W11a）から第1罫線までの長さの半分の長さを介して離れており、該第2仮想線は、該第2罫線とは、第3途中位置を通り第3辺部と平行な仮想線と第4途中位置を通り第1辺部と平行な仮想線の交点（W12a）から第2罫線までの長さの半分の長さを介して離れていることを特徴とする。

30

【0031】

よって、切目線は、第1罫線及び第2罫線と所定距離離れて形成されているので、包装箱が落下して正面部が第1罫線や第2罫線を介して折れ曲がっても、切目線の破断をより確実に防止することができる。

【0032】

また、第16には、上記第11から第15までのいずれかの構成において、スリーブ状部において、左側面部における底面側で正面部側の角部を含む領域である角部領域と右側面部における底面側で正面部側の角部を含む領域である角部領域は、罫線が形成されていない罫線未形成領域であり、底面部における正面部側の角部を含む領域である角部領域は、罫線が形成されていない罫線未形成領域であることを特徴とする。よって、罫線が形成された角部の強度を保つことができる。

40

【0033】

また、第17には、上記第11から第16までのいずれかの構成において、左側面側切目線と正面部の左側面側の辺部間に形成された左第1切目線（K15）と、右側面側切目線と正面部の右側面側の辺部間に形成された右第1切目線（K16）と、左側面部における正面部側の辺部と正面部と相対する側面部である背面部側の辺部間に形成された第2切目線（K20）と、右側面部における正面部側の辺部と背面部側の辺部間に形成された第3切目線（K30）と、背面部における左側面側の辺部と右側面側の辺部間に形成された第4切目線（K40）とを有し、左第1切目線の左側面側切目線側の端部から右第1切目線の右側面側切目線側の端部まで連続して形成され、背面部においては、背面部の第4切

50

目線よりも下側の領域である下背面部（４２）に、第４切目線から連設された一対の切目線（Ｋ４４、Ｋ４５）が設けられ、背面部の第４切目線よりも上側の領域である上背面部（４５）に、背面部の左側面側上端の角部である第３角部と第４切目線の左側面側の端部から右側面側の端部までの途中位置である第５途中位置の間の位置に第３角部と第５途中位置とを結ぶ方向に第１折れ線（Ｃ４２）が形成されるとともに、背面部の右側面側上端の角部である第４角部と第４切目線の右側面側の端部から左側面側の端部までの途中位置で第５途中位置よりも右側面側である第６途中位置の間の位置に第４角部と第６途中位置とを結ぶ方向に第２折れ線（Ｃ４３）が形成され、第１折れ線（Ｃ４２）と第２折れ線（Ｃ４３）とが、第４切目線側にいくに従い第１折れ線と第２折れ線間の長さが短くなるように左右線対称に形成され、第１折れ線の下端と第２折れ線の下端は左右方向に間隔を介して設けられ、上背面部が、第１折れ線と第２折れ線間の領域である中央領域（４６）と、第１折れ線よりも左側面側の領域である左側領域（４７）と、第２折れ線よりも右側面側の領域である右側領域（４８）とを有し、左側面部においては、第２切目線が、左側面部の背面側の辺部から形成された第２切目線主構成部（Ｋ２４）を有し、左側面部の第２切目線よりも上側の領域である上左側面部（２５）に、第３折れ線（Ｃ２１）が、左側面部の背面側上端の角部である第５角部と第２切目線主構成部の背面側の端部から正面側の端部への途中位置である第７途中位置の間の位置に、第５角部と第７途中位置とを結ぶ方向に形成され、第３折れ線は、下側にいくほど正面側となるように形成され、第２切目線主構成部は、正面側にいくほど上側となるように形成され、右側面部においては、第３切目線が、右側面部の背面側の辺部から形成された第３切目線主構成部（Ｋ３４）を有し、右側面部の第３切目線よりも上側の領域である上右側面部（３５）に、第４折れ線（Ｃ３１）が、右側面部の背面側上端の角部である第６角部と第３切目線主構成部の背面側の端部から正面側の端部への途中位置である第８途中位置の間の位置に、第６角部と第８途中位置とを結ぶ方向に形成され、第４折れ線は、下側にいくほど正面側となるように形成され、第３切目線主構成部は、正面側にいくほど上側となるように形成され、正面部に周状に形成された切目線を破断して、正面部に周状に形成された切目線により囲まれた領域である開口蓋部（１４）を取り除くことにより、正面部に開口部（１９）が形成され、正面部から開口蓋部を取り除いた状態において、下背面部における該一対の切目線間の領域を外側から押して、中央領域の下端に指をひっかけ、中央領域の下端を外側にひっぱることにより、左側領域が中央領域に対して第１折れ線を介して折曲するとともに、右側領域が中央領域に対して第２折れ線を介して折曲して、第４切目線における右側領域と下背面部間の切目線と左側領域と下背面部間の切目線とが破断し、上左側面部における第３折れ線よりも背面側の領域である第１背面側領域（２７）が第３折れ線を介して内側に回動して第２切目線主構成部における第１背面側領域と左側面部の第２切目線よりも下側の領域である下左側面部（２２）間の切目線が破断するとともに、上右側面部における第４折れ線よりも背面側の領域である第２背面側領域（３７）が第４折れ線を介して内側に回動して第３切目線における第２背面側領域と右側面部の第３切目線よりも下側の領域である下右側面部（３２）間の切目線が破断し、さらに、中央領域の下端を上方にひっぱることにより、第２切目線主構成部における第３折れ線よりも正面側の領域である第１正面側領域（２６）と下左側面部間の切目線が破断するとともに、第３切目線主構成部における第４折れ線よりも正面側の領域である第２正面側領域（３６）と下右側面部間の切目線が破断し、さらに、第２切目線における第２切目線主構成部よりも正面側の切目線と第３切目線における第３切目線主構成部よりも正面側の切目線を破断し、左第１切目線と右第１切目線を破断することにより、正面部における開口蓋部以外の領域である枠状部（１２）の左第１切目線及び右第１切目線よりも上側の領域である上正面部（１５）と上左側面部と上右側面部と上背面部と蓋部とからなる上側構成部（Ａ－２）が取り除かれることを特徴とする。

【００３４】

第１７の構成の包装箱によれば、下背面部における一対の切目線間の領域を押すことにより、中央領域の下側に指を入れるスペースが形成されるので、包装箱の上側構成部を取

り除く際に、最初に指を引っ掛ける操作を容易に行なうことができる。

【 0 0 3 5 】

また、第 1 折れ線と第 2 折れ線とが設けられているので、第 4 切目線における左側領域と下背面部間の切目線と右側領域と下背面部間の切目線の破断が容易であり、また、第 3 折れ線と第 4 折れ線とが設けられているので、第 2 切目線主構成部における第 1 背面側領域と下右側面部間の切目線と第 3 切目線主構成部における第 2 背面側領域と下左側面部間の切目線の破断が容易であり、さらに、第 2 切目線主構成部と第 3 切目線主構成部とが正面側にいくに従い上側となるように形成されているので、第 2 切目線主構成部と第 3 切目線主構成部の破断が容易となる。

【 0 0 3 6 】

10

また、第 1 8 には、上記第 1 7 の構成において、第 2 切目線において、第 2 切目線主構成部の正面側の端部から左側面部の正面側の辺部まで形成された切目線 (K 2 2) が、正面側にいくほど下側となるように形成され、第 3 切目線において、第 3 切目線主構成部の正面側の端部から右側面部の正面側の辺部まで形成された切目線 (K 3 2) が、正面側にいくほど下側となるように形成されていることを特徴とする。

【 0 0 3 7 】

よって、上側構成部を正面側又は正面下側にひっばることにより、第 2 切目線における第 2 切目線主構成部よりも正面側の切目線と第 3 切目線における第 3 切目線主構成部よりも正面側の切目線を破断することができる。

【 0 0 3 8 】

20

また、第 1 9 には、第 1 7 又は第 1 8 の構成において、第 4 切目線における左側領域と下背面部間の切目線が、左側面部側にいくほど上側となるように形成され、第 4 切目線における右側領域と下背面部間の切目線が、右側面部側にいくほど上側となるように形成されていることを特徴とする。第 4 切目線における左側領域と下背面部間の切目線と第 4 切目線における右側領域と下背面部間の切目線とを破断しやすくする。

【 0 0 3 9 】

また、第 2 0 には、上記第 1 9 の構成において、第 2 切目線と第 3 折れ線又は第 3 折れ線の延長線の接点から背面側の切目線である第 1 部分構成部 (K 2 4 - 1) の左側面部の下辺に対する傾斜角度は、第 4 切目線における右側領域と下背面部間の切目線の背面部の下辺に対する傾斜角度と略同一であり、第 3 切目線と第 4 折れ線又は第 4 折れ線の延長線の接点から背面側の切目線である第 2 部分構成部 (K 3 4 - 1) の右側面部の下辺に対する傾斜角度は、第 4 切目線における左側領域と下背面部間の切目線の背面部の下辺に対する傾斜角度と略同一であることを特徴とする。

30

【 発明の効果 】

【 0 0 4 0 】

本発明に基づく包装箱によれば、包装箱を落下させた場合に、折曲げ用の罫線が設けられているので、落下の衝撃により罫線を介して特定側面部が折れ曲がり、罫線を介して特定側面部 (正面部) が折れ曲がることにより落下の衝撃を吸収することから、切目線の破断を防止することができる。

【 0 0 4 1 】

40

また、本発明に基づく包装箱によれば、包装箱を落下させた場合に、折曲げ用の第 1 罫線及び第 2 罫線が設けられているので、落下の衝撃により罫線を介して正面部が折れ曲がり、第 1 罫線と第 2 罫線を介して正面部が折れ曲がることにより落下の衝撃を吸収することから、底面部側切目線の破断を防止することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 4 2 】

【 図 1 】 包装箱の正面図である。

【 図 2 】 包装箱の底面図である。

【 図 3 】 包装箱の左側前方斜視図である。

【 図 4 】 包装箱の右側前方斜視図である。

50

- 【図 5】 包装箱の左側後方斜視図である。
【図 6】 包装箱の右側後方斜視図である。
【図 7】 包装箱の外側面から見た展開図である。
【図 8】 包装箱の外側面から見た展開図である。
【図 9】 図 8 の要部説明図である。
【図 10】 図 8 の要部説明図である。
【図 11】 図 8 の要部拡大図である。
【図 12】 包装箱の使用方法を説明する右側後方斜視図である。
【図 13】 包装箱の使用方法を説明する左側前方斜視図である。
【図 14】 包装箱の使用方法を説明する右側後方斜視図である。
【図 15】 包装箱の使用方法を説明する右側後方斜視図である。
【図 16】 包装箱の使用方法を説明する右側後方斜視図である。
【図 17】 包装箱の使用方法を説明する左側前方斜視図である。
【図 18】 包装箱の作用を説明するための説明図である。
【発明を実施するための形態】

【0043】

本発明に基づく包装箱 A は、図 1 ~ 図 10 に示されるように構成され、スリーブ状部 5 と、底面部 50 と、蓋部 110、140 と、フラップ部 120、130 とを有している。

【0044】

ここで、スリーブ状部 5 は、正面部 10 と、正面部 10 の左側面側の辺部から折れ線 C20 を介して連設された左側面部 20 と、正面部 10 の右側面側の辺部から折れ線 C30 を介して連設された右側面部 30 と、左側面部 20 の背面側の辺部から折れ線 C40 を介して連設された背面部 40 と、背面部 40 の右側面側の辺部から折れ線 C48 を介して連設された糊代部 49 とを有している。折れ線 C20 と折れ線 C30 と折れ線 C40 と折れ線 C48 とは互いに平行となっている。正面部 10 と左側面部 20 と右側面部 30 と背面部 40 とが、スリーブ状部 5 における側面部となる。なお、包装箱 A の内側の面には、折れ線 C20、C30、C40、C48 に沿って折曲げ用の罫線が形成されている。

【0045】

包装箱 A は、1 枚のシート状のブランク（具体的には段ボール（特に、両面段ボール）であり、厚紙等でもよい）により形成されている。なお、両面段ボールにおける中芯の段の方向は、図 8 に示す円内に示す方向（折れ線 C20、C30、C40 と平行な方向）である（中芯の段の方向は他の方向でもよい。）。

【0046】

正面部 10 と左側面部 20 と右側面部 30 と背面部 40 は、方形状（具体的には、方形状の平板状）を呈し、正面部 10 と背面部 40 は、縦長の長形状を呈している。

【0047】

正面部 10 と左側面部 20 と右側面部 30 と背面部 40 における縦方向の長さは略同一に形成されている。

【0048】

また、横方向には、正面部 10 と背面部 40 とは同一の長さに形成され、左側面部 20 と右側面部 30 とは略同一の長さに形成されている（具体的には、右側面部 30 の横方向の長さが左側面部 20 の横方向の長さよりも若干小さく形成されている）。

【0049】

糊代部 49 は、略台形状に形成され、右側面部 30 の背面側の端部領域の外側の面に接着されている。なお、糊代部 49 を右側面部 30 の背面側の端部領域の内側の面に接触したものでよい。また、糊代部 49 は、背面部 40 から連設されているが、右側面部 30 の背面側の端部から連設され、背面部 40 の右側面側の端部に接着された構成としてもよい。

【0050】

スリーブ状部 5 には、切目線（切断予定線としてもよい）K5 が形成されている。すな

10

20

30

40

50

わち、切目線 K 5 は、正面部 1 0 に形成された切目線 K 1 0 と、左側面部 2 0 に形成された切目線 K 2 0 と、右側面部 3 0 に形成された切目線 K 3 0 と、背面部 4 0 に形成された切目線 K 4 0 と、糊代部 4 9 に形成された切目線 K 4 9 とを有している。切目線 K 2 0 は、切目線 K 1 0 における切目線 K 1 5 の左側面側の端部から連続して形成され、切目線 K 3 0 は、切目線 K 1 0 における切目線 K 1 6 の右側面側の端部から連続して形成され、切目線 K 4 0 は、切目線 K 2 0 の背面側の端部から連続して形成され、切目線 K 4 9 は、切目線 K 4 0 の右側面側の端部から連続して形成されている。なお、糊代部 4 9 が右側面部 3 0 に接着された状態では、切目線 K 3 0 の背面側の端部と切目線 K 4 9 とは重なるので、切目線 K 3 0 は、切目線 K 4 0 の右側面側の端部から連続して形成されているといえる。切目線 K 1 0、K 2 0、K 3 0、K 4 0 はいずれも切断予定線により形成されている。

【0051】

つまり、切目線 K 5 における切目線 K 1 0 と切目線 K 1 4 以外の切目線 K 5 - 1 は、切目線 K 1 5 の切目線 K 1 2 b 側の端部から切目線 K 2 0、切目線 K 4 0、切目線 K 3 0 を経て切目線 K 1 6 の切目線 K 1 2 c 側の端部まで連続して形成されているといえる。また、切目線 K 1 0 の一部（切目線 K 1 2 の下側部分）と切目線 K 2 0 と切目線 K 3 0 と切目線 K 4 0 とで切目線が周状（ループ状としてもよい）に設けられている。

【0052】

切目線 5 を構成する切込みは、切目線 K 1 2 d と切目線 K 1 4 を除き、主として略への子状の切込み 2 1 0 又は切込み 2 1 0 と線対称の切込み 2 2 0 を列状に配置することにより形成されている。切目線 K 1 2 d と切目線 K 1 4 とは、切断方向に沿った直線状又は曲線状の切目線により形成されている。切込み 2 1 0、2 2 0 は、切目線において、従来からある一般的な形状の切込みであるといえる。

【0053】

ここで、切目線（第 1 切目線）K 1 0 は、正面部 1 0 に略方形状に形成された切目線 K 1 2 と、切目線 K 1 2 における上端の切目線 K 1 2 a から連設された切目線 K 1 4 と、切目線 K 1 2 における切目線 K 1 2 b から連設された切目線 K 1 5 と、切目線 K 1 2 における切目線 K 1 2 c から連設された切目線 K 1 6 とを有している。

【0054】

切目線 K 1 2 は、切目線 K 1 2 a と、切目線 K 1 2 a の左側面側の端部から連設された切目線 K 1 2 b と、切目線 K 1 2 a の右側面側の端部から連設された切目線 K 1 2 c と、切目線 K 1 2 b の下端から連設されるとともに、切目線 K 1 2 c の下端から連設された切目線 K 1 2 d とを有し、切目線 K 1 2 は、全体に周状（枠状としてもよい）に形成されている。切目線 K 1 2 は、縦長略長方形状を呈している。

【0055】

切目線（上側切目線）K 1 2 a は、左右方向に直線状に形成され（つまり、左右方向の中心位置の直線状の切込みを挟んで切込み 2 1 0 と切込み 2 2 0 とが直線状に配置されている）、正面部 1 0 の上辺 1 0 a や下辺 1 0 d と平行に形成されている。

【0056】

また、切目線（第 1 隣接側面部側切目線、左側面側切目線）K 1 2 b は、上下方向に直線状に形成され（つまり、切目線を構成する切込み 2 1 0 が直線状に形成されている）、正面部 1 0 の右側面側の辺部や左側面側の辺部と平行に形成されている。

【0057】

また、切目線（第 2 隣接側面部側切目線、右側面側切目線）K 1 2 c は、上下方向に直線状に形成され（つまり、切目線を構成する切込み 2 2 0 が直線状に形成されている）、正面部 1 0 の右側面側の辺部や左側面側の辺部と平行に形成されている。

【0058】

また、切目線（底面部側切目線）K 1 2 d は、切目線 K 1 2 b の下端から連設された切目線 K 1 2 d - 2 と、切目線 K 1 2 c の下端から連設された切目線 K 1 2 d - 3 と、切目線 K 1 2 d - 2 の切目線 K 1 2 b とは反対側の端部から連設されるとともに、切目線 K 1 2 d - 3 の切目線 K 1 2 c とは反対側の端部から連設された切目線 K 1 2 d - 1 とを有し

ている。

【0059】

ここで、切目線（横方向切目線、底面部側第1切目線）K12d-1は、左右方向（横方向としてもよい）に直線状に形成され（つまり、切目線を構成する直線状の切込みが直線状に形成されている）、正面部10の上辺10aや下辺10dと平行に形成されている。

【0060】

また、切目線（第1傾斜切目線、底面部側第2切目線）K12d-2は、切目線K12d-1側から切目線K12b側にいくに従い上側となるように、正面部10の上辺10aや下辺10dに対して傾斜した直線状に形成されている。つまり、切目線K12d-2は、正面部10の左側面側の辺部（第2辺部）10b側にいくに従い、正面部10の下辺10dからの距離が長くなるように形成されている。このように、切目線K12d-2を罫線C11と同様に左側面側にいくに従い上側となるように正面部10の上辺や下辺に対して傾斜した構成とすることにより、切目線K12d-2と罫線C11間の距離をなるべく長く確保することができ、包装箱Aを落下させて罫線C11を介して正面部10が折曲した場合の影響を小さくすることができ、切目線K12d-2の破断を防止することができる。つまり、切目線K12dを横方向の直線状の切目線とすると、切目線K12bとの角部が罫線C11に近接してしまい、包装箱Aを落下させて罫線C11を介して正面部10が折曲した場合に、該角部の切目線が破断するおそれがあるが、本実施例の場合には、そのようなおそれがない。また、切目線K12d-2を直線状とすることにより、切目線K12d-2を円弧状（つまり、斜め下方に膨出した円弧状）とする場合に比べて、切目線K12d-2と罫線C11との距離を長く確保することができるといえる。

【0061】

また、切目線（第2傾斜切目線、底面部側第3切目線）K12d-3は、切目線K12d-1側から切目線K12c側にいくに従い上側となるように、正面部10の上辺10aや下辺10bに対して傾斜した直線状に形成されている。つまり、切目線K12d-3は、正面部10の右側面側の辺部（第2辺部、第3辺部）10c側にいくに従い、正面部10の下辺10dからの距離が長くなるように形成されている。このように、切目線K12d-3を罫線C12と同様に右側面側にいくに従い上側となるように正面部10の上辺や下辺に対して傾斜した構成とすることにより、切目線K12d-3と罫線C12間の距離をなるべく長く確保することができ、包装箱Aを落下させて罫線C12を介して正面部10が折曲した場合の影響を小さくすることができ、切目線K12d-3の破断を防止することができる。つまり、切目線K12dを横方向の直線状の切目線とすると、切目線K12cとの角部が罫線C12に近接してしまい、包装箱Aを落下させて罫線C12を介して正面部10が折曲した場合に、該角部の切目線が破断するおそれがあるが、本実施例の場合には、そのようなおそれがない。また、切目線K12d-3を直線状とすることにより、切目線K12d-3を円弧状（つまり、斜め下方に膨出した円弧状）とする場合に比べて、切目線K12d-3と罫線C12との距離を長く確保することができるといえる。

【0062】

また、切目線K14は、切目線K12aから連設され、切目線K12aの下側に略円弧状（具体的には、半円状）に形成されている。

【0063】

また、切目線（左第1切目線）K15は、切目線K12bの上端から下端までの途中位置（切目線K12bの下端に近い側の途中位置）から連設され、正面部10の左側面側の辺部まで直線状に形成されている（つまり、切目線を構成する切込み210が直線状に形成されている）。切目線K15は、正面部10の左側面側の辺部側にいくほど上側となるように正面部10の上辺や下辺に対して傾斜して形成され、包装箱Aの展開状態では、切目線K15と切目線K22とは1つの直線状に形成されている（切込み210が1つの直線状に配設されている）。

【0064】

また、切目線（右第1切目線）K 1 6は、切目線K 1 2 cの上端から下端までの途中位置（切目線K 1 2 cの下端に近い側の途中位置）から連設され、正面部1 0の右側面側の辺部まで直線状に形成されている（つまり、切目線を構成する切込み2 2 0が直線状に形成されている）。切目線K 1 6は、正面部1 0の右側面側の辺部側にいくほど上側となるように正面部1 0の上辺や下辺に対して傾斜して形成され、包装箱Aの展開状態では、切目線K 1 5と切目線K 3 2とは1つの直線状に形成されている（切込み2 1 0が1つの直線状に配設されている）。

【0065】

正面部1 0において切目線K 1 0が上記のように形成されていることにより、正面部1 0は、切目線K 1 2を介して、外側の枠状部1 2と、内側の開口蓋部1 4とに区画され、開口蓋部1 4は、切目線K 1 4を介して、開口蓋部本体1 6と押し部1 8とに区画されている。すなわち、切目線K 1 4と切目線K 1 2 aで囲まれた略半円状の領域が押し部1 8であり、開口蓋部1 4における押し部1 8以外の領域が開口蓋部本体1 6である。

10

【0066】

また、切目線（第2切目線）K 2 0は、切目線（第2切目線副構成部）K 2 2と、切目線（第2切目線主構成部）K 2 4とを有し、切目線K 2 2は、切目線K 1 5の左側面側の端部から連続して形成され（「連設され」としてもよい。他においても同じ。）、左側面部2 0の正面側の辺部から背面側に行くに従い上側となる方向に形成され、切目線K 2 4は、切目線K 2 2の背面側の端部から連続して形成され、背面側に行くに従い下側となる方向に形成されている。

20

【0067】

切目線K 2 2、K 2 4は、複数の切込み2 1 0を間隔を介して列状に配置することにより形成されている。

【0068】

切目線K 2 2における複数の切込み2 1 0の配設方向は、左側面部2 0の正面側の端部から背面側に行くに従い上方となるように（つまり、水平方向（例えば、左側面部2 0の下辺の方向）に対して斜め上方に傾斜して）直線状に形成され、切目線K 2 4における複数の切込み2 1 0の配設方向は、切目線K 2 4の背面側の端部から背面側に行くに従い下方となるように（つまり、斜め下方に傾斜して）直線状に形成されている。つまり、切目線K 2 4は、背面側から正面側に行くに従い上方となるように（つまり、水平方向に対して斜め上方に傾斜して）直線状に形成されている。なお、左側面部2 0の下辺に対する傾斜角度としては、切目線K 2 2が切目線K 2 4よりも大きく形成され、切目線K 2 4は、背面側から正面側に向けてなだらかな上向きとなっていて、切目線K 2 2は、正面側から背面側に向けて、切目線K 2 4よりも大きな角度で上向きとなっている。切目線K 2 2は、切目線K 2 4の正面側の端部から左側面部2 0の正面側の辺部まで形成され、正面側に行くほど下側となるように形成されている。

30

【0069】

切目線K 2 4の正面側の端部から背面側の端部までの前後方向の長さ（左側面部2 0の下辺の方向の長さ）L 2 4は、切目線K 2 2の正面側の端部から背面側の端部までの前後方向の長さ（左側面部2 0の下辺の方向の長さ）L 2 2よりも長く形成されている（つまり、長さL 2 4は、左側面部2 0の背面側の端部から正面側の端部までの前後方向の長さL 2 0の半分以上の長さを有している）。なお、具体的には、長さL 2 2は、長さL 2 0の $1/4 \sim 1/3$ とする（つまり、長さL 2 4は、長さL 2 0の $2/3 \sim 3/4$ とする）。

40

【0070】

また、切目線K 2 4における下左側面部2 2と背面側領域2 7間の部分の切目線K 2 4 - 1の前後方向の長さL 2 4 - 1は、長さL 2 0の $1/3$ （略 $1/3$ としてもよい）となっている。すなわち、切目線K 2 4 - 1の前後方向の長さは、切目線K 2 0の切目線K 2 4 - 1以外の部分の前後方向の長さの半分と同一（略同一としてもよい）である。つまり、長さL 2 4 - 1を、長さL 2 0の $1/3$ （略 $1/3$ としてもよい）とすることにより、

50

背面側領域 27 が正面側領域 26 に対して回動しやすく、切目線 K 24 - 1 を破断しやすい。切目線 K 24 - 1 は、切目線 K 24 の一部であり、切目線 K 24 と折れ線 C 21 の接点（折れ線 C 21 が切目線 K 24 と接していない場合には、折れ線 C 21 の延長線の切目線 K 24 との接点）から切目線 K 24 の背面側の端部までとなる。下左側面部 22、背面側領域 27、折れ線 C 21 については、後述する。

【0071】

なお、包装箱 A の展開状態においては、切目線 K 15 と切目線 K 22 とで、切込み K 210 が 1 つの直線状に配設されている。

【0072】

また、切目線（第 3 切目線）K 30 は、切目線（第 3 切目線副構成部）K 32 と、切目線（第 3 切目線主構成部）K 34 とを有し、切目線 K 32 は、切目線 K 16 の右側面側の端部から連続して形成され、右側面部 30 の正面側の辺部から背面側に行くに従い上側となる方向に形成され、切目線 K 34 は、切目線 K 32 の背面側の端部から連続して形成され、背面側に行くに従い下側となる方向に形成されている。つまり、切目線 K 30 は、切目線 K 20 と左右対称に形成され（つまり、包装箱 A の展開状態では、線対称に形成され）、切目線 K 32 は、切目線 K 22 と左右対称に形成され、切目線 K 34 は、切目線 K 24 と左右対称に形成されている。

【0073】

切目線 K 32、K 34 は、複数の切込み 220 を間隔を介して列状に配置することにより形成されている。

【0074】

切目線 K 32 における複数の切込み 220 の配設方向は、右側面部 30 の正面側の端部から背面側に行くに従い上方となるように（つまり、斜め上方に傾斜して）直線状に形成され、切目線 K 34 における複数の切込み 220 の配設方向は、切目線 K 32 の背面側の端部から背面側に行くに従い下方となるように（つまり、斜め下方に傾斜して）直線状に形成されている。つまり、切目線 K 34 は、背面側から正面側に行くに従い上方となるように（つまり、斜め上方に傾斜して）直線状に形成されている。なお、右側面部 30 の下辺に対する傾斜角度としては、切目線 K 32 が切目線 K 34 よりも大きく形成され、切目線 K 34 は、背面側から正面側に向けてなだらかな上向きとなっていて、切目線 K 32 は、正面側から背面側に向けて、切目線 K 34 よりも大きな角度で上向きとなっている。切目線 K 32 は、切目線 K 34 の正面側の端部から右側面部 30 の正面側の辺部まで形成され、正面側に行くほど下側となるように形成されている。

【0075】

切目線 K 34 の正面側の端部から背面側の端部までの前後方向の長さ（右側面部 30 の下辺の方向の長さ）L 34 は、切目線 K 32 の正面側の端部から背面側の端部までの前後方向の長さ（右側面部 30 の下辺の方向の長さ）L 32 よりも長く形成されている（つまり、長さ L 34 は、右側面部 30 の背面側の端部から正面側の端部までの前後方向の長さ L 30 の半分以上の長さを有している）。なお、具体的には、長さ L 32 は、長さ L 30 の $1/4 \sim 1/3$ とする（つまり、長さ L 34 は、長さ L 30 の $2/3 \sim 3/4$ とする）。

【0076】

また、切目線 K 34 における下左側面部 32 と背面側領域 37 間の部分の切目線 K 34 - 1 の前後方向の長さ L 34 - 1 は、長さ L 30 の $1/3$ （略 $1/3$ としてもよい）となっている。すなわち、切目線 K 34 - 1 の前後方向の長さは、切目線 K 30 の切目線 K 34 - 1 以外の部分の前後方向の長さの半分と同一（略同一としてもよい）である。つまり、長さ L 34 - 1 を、長さ L 30 の $1/3$ （略 $1/3$ としてもよい）とすることにより、背面側領域 37 が正面側領域 36 に対して回動しやすく、切目線 K 34 - 1 を破断しやすい。切目線 K 34 - 1 は、切目線 K 34 の一部であり、切目線 K 34 と折れ線 C 31 の接点（折れ線 C 31 が切目線 K 34 と接していない場合には、折れ線 C 31 の延長線の切目線 K 34 との接点）から切目線 K 34 の背面側の端部までとなる。下左側面部 32、背面

10

20

30

40

50

側領域 37、折れ線 C31 については、後述する。

【0077】

これにより、上側構成部 A-2 を上側に引っ張ることにより、切目線 K20、K30 における前後方向の半分以上の長さを破断することができる。

【0078】

なお、包装箱 A の展開状態においては、切目線 K15 と切目線 K32 とで、切込み K220 が 1 つの直線状に配設されている。

【0079】

また、切目線（第 4 切目線）K40 は、左右方向に直線状に形成された切目線 K41 と、切目線 K41 の左側面側の端部から形成された切目線 K42 と、切目線 K41 の右側面側の端部から形成された切目線 K43 とを有している。

10

【0080】

切目線 K41 は、左右方向に直線状に形成され、正面部 10 の上辺や下辺と平行に形成されている。また、切目線 K42 は、切目線 K41 の左側面側の端部から連続して形成され、切目線 K43 は、切目線 K41 の右側面側の端部から連続して形成されている。切目線 K40 は、左右線対称に形成されている。

【0081】

切目線 K41 は、背面部 40 の上下方向における略中央位置に形成され、左右方向において背面部 40 の中央位置に形成され、左右方向の中心位置の直線状の切込みを挟んで切込み 210 と切込み 220 とが直線状に配置されている。

20

【0082】

切目線 K42 は、複数の切込み 210 を間隔を介して列状に配置することにより形成され、切目線 K43 は、複数の切込み 220 を間隔を介して列状に配置することにより形成されている。

【0083】

切目線 K42 における複数の切込み 210 の配設方向は、切目線 K41 側から背面部 40 の左側面側の端部（切目線 K24 側）にいくに従い上側となるように（つまり、斜め上方に傾斜して）直線状に形成され、切目線 K43 における複数の切込み 220 の配設方向は、切目線 K41 側から背面部 40 の右側面側の端部にいくに従い上側となるように（つまり、斜め上方に傾斜して）直線状に形成されている。つまり、切目線 K42、K43 は背面部 40 の外側にいくほど上側となるように傾斜して形成されている。

30

【0084】

なお、切目線 K42 の背面部 40 の下辺に対する傾斜角度は、切目線 K24 の左側面部 20 の下辺に対する傾斜角度と同一（略同一としてもよい）であり、包装箱 A の展開状態においては、切目線 K24 と切目線 K42 とで切込み 210 が 1 つの直線状に配設されている。また、切目線 K43 の背面部 40 の下辺に対する傾斜角度は、切目線 K34 の右側面部 30 の下辺に対する傾斜角度と同一（略同一としてもよい）である。よって、隣接する切目線の傾斜角度が同一であるので、切目線 K42 から切目線 K24 にかけて極めてスムーズに破断することができ、また、切目線 K43 から切目線 K34 にかけて極めてスムーズに破断することができる。

40

【0085】

また、切目線 K49 は、糊代部 49 に形成されていて、切目線 K43 の右側面側の端部から連続して形成され、直線状の切込み（連続した切込み）により形成され、切目線 K49 は、背面部 40 側の端部から糊代部 49 の先端側にいくほど上方となるように（つまり、斜め上方に傾斜して）形成されている。この切目線 K49 は、切目線 K34-1 の背面側の端部と一致して形成され、糊代部 49 を右側面部 30 に接着した状態では、切目線 K49 は、切目線 K34-1 の背面側の端部と重なり合っている。

【0086】

また、切目線 K41 から是一对の切目線 K44、K45 が左右両側に下方に向けて形成されている。つまり、切目線 K44 は、切目線 K41 の左側面側の端部近傍（切目線 K4

50

1の左側面側の端部としてもよい)から連設され、下方に向けて(背面部40の下辺に対して直角の方向に)形成され、切目線K45は、切目線K41の右側面側の端部近傍(切目線K41の右側面側の端部としてもよい)から連設され、下方に向けて(背面部40の下辺に対して直角の方向に)形成されている。切目線K44と切目線K45とは同一の長さに形成され、互いに平行に形成され、ともに直線状の切込み(連続した切込み)により形成されている。また、切目線K44の下端と切目線K45の下端を結ぶ折れ線C41が形成され、具体的には、背面部40の内側の面に折れ線C41に沿って折曲げ用の罫線が形成されている。なお、切目線K44、K45を切込みではなく、切断予定線により形成してもよい。つまり、切目線K44、K45は、連続した切込みと切断予定線のいずれにより形成してもよい。

10

【0087】

以上のように、切目線K42の切目線K41側の端部から切目線K20を経て切目線K15の切目線K12b側の端部までの連続した切目線K5-1が切込み210により形成され、また、切目線K43の切目線K41側の端部から切目線K30を経て切目線K16の切目線K12c側の端部までの連続した切目線K5-2が切込み220により形成されている。切目線K5-1における開封方向は、切目線K42の切目線K41側の端部から切目線K20を経て切目線K15の切目線K12b側の端部に至る方向であり、切目線K5-2の開封方向は、切目線K43の切目線K41側の端部から切目線K30を経て切目線K16の切目線K12c側の端部に至る方向である。

【0088】

20

なお、包装箱Aにおいて、切目線K5を介して下側の部分が下側構成部A-1となり、上側の部分が上側構成部A-2となる。なお、下側構成部A-1は、正面部10においては、枠状部12における切目線K15、K16よりも下側の領域を有し、上側構成部A-2は、正面部10においては、枠状部12における切目線K15、K16よりも上側の領域を有する。

【0089】

また、包装箱Aにおいては、正面部(特定側面部)10に罫線C11、C12が形成されている。罫線C11、C12は、正面部10の内側の面に形成されている。罫線C11、C12は折曲げ用の罫線であり、罫線C11、C12に沿って線状の窪みが形成されている。

30

【0090】

すなわち、罫線(第1罫線)C11は、正面部10の下辺(底面部50側の辺部(第1辺部))10dの左側面側の端部から右側面側の端部までの途中位置(第1途中位置)P11から正面部10の左側面側の辺部(第2辺部)10bの下端から上端までの途中位置(第2途中位置)Q11まで直線状に形成され、正面部10の下辺に対して傾斜して形成されている。また、正面部10の左側面側で下側の角部R11から途中位置P11までの長さ(第1途中位置)Q11まで直線状に形成され、正面部10の下辺に対する角度は略45度となっている。罫線C11は、正面部10における底面部50側で左側面部20側の角部(第1角部)R11を含む領域である角部領域(第1角部領域)KR11に形成されている。

40

【0091】

角部R11は、正面部10の下辺10dと正面部10の左側面側の辺部10bとがなす角部であり、正面部10の下辺10dと正面部10の左側面側の辺部10bとがなす先端部分(正面部10の下端と左側面側の端部がなす先端部分としてもよい)であり、厳密には、正面部10の下辺10dの左側面側の端部と正面部10の左側面側の辺部10bの下端とが接する場合には、正面部10の下辺10dの左側面側の端部と正面部10の左側面側の辺部10bの下端とが接する位置であり、該端部と下端が接しない場合には、角部R11は、正面部10の下辺10dの左側面側の端部との距離と正面部10の左側面側の辺部10bの下端との距離が同一(略同一としてもよい)で、2つの距離がともに最短となる位置となる。なお、角部R11を、正面部10の下端と左側面側の端部の位置とを含む

50

領域（正面部 10 の下辺 10 d の左側面側の端部と正面部 10 の左側面側の辺部 10 b の下端を含む領域（先端領域））（角部領域 K R 1 1 よりも小さい領域）としてもよい。

【0092】

また、角部領域 K R 1 1 は、角部 R 1 1 を含むとともに、正面部 10 の下辺 10 d と正面部 10 の左側面側の辺部 10 b とで囲まれた角部 R 1 1 側の領域であり、例えば、途中位置 P 1 1 を通り辺部 10 b と平行な仮想線（途中位置 P 1 1 よりも右側面側を通り辺部 10 b と平行な仮想線としてもよい）と、途中位置 Q 1 1 を通り下辺 10 d と平行な仮想線（途中位置 Q 1 1 よりも上側を通り下辺 10 d と平行な仮想線としてもよい）と、辺部 10 b と、下辺 10 d とで囲まれる方形状の領域であり、この領域内に罫線 C 1 1 が設けられている。なお、角部領域 K R 1 1 は、方形状でなくてもよく、角部 R 1 1 を有する領域で、罫線 C 1 1 を内側に有する領域であればよい。

10

【0093】

なお、罫線 C 1 1 は、切目線 K 1 0 とは接しておらず、例えば、切目線 K 1 2 d - 2 と罫線 C 1 1 とは間隔を介して形成されている。また、正面部 10 の左側面側で下側の角部 R 1 1 と切目線 K 1 2 d とは、罫線 C 1 1 を挟んで互いに反対側に位置している。

【0094】

また、罫線 C 1 1 は、途中位置 P 1 1 や途中位置 Q 1 1 まで形成されていなくてもよく、罫線 C 1 1 の端部が、途中位置 P 1 1 に向かう途中位置まで形成されたものとしてもよく（つまり、罫線 C 1 1 の途中位置 P 1 1 側の端部と途中位置 P 1 1 との間には間隔が形成されている）、また、罫線 C 1 1 の端部が、途中位置 Q 1 1 に向かう途中位置まで形成されたものとしてもよい（つまり、罫線 C 1 1 の途中位置 Q 1 1 側の端部と途中位置 Q 1 1 との間には間隔が形成されている）。つまり、罫線 C 1 1 が、途中位置 P 1 1 と途中位置 Q 1 1 の間の位置に、途中位置 P 1 1 と途中位置 Q 1 1 を結ぶ方向に形成（「直線状に形成」としてもよい）されていればよい。

20

【0095】

なお、切目線 K 1 2（特に、切目線 K 1 2 d）は、罫線 C 1 1 を挟んで罫線 C 1 1 が形成された角部領域 K R 1 1 における角部 R 1 1 とは反対側に形成されている。

【0096】

また、罫線（第 2 罫線）C 1 2 は、正面部 10 の下辺の右側面側の端部から左側面側の端部までの途中位置（第 1 途中位置、第 3 途中位置）P 1 2 から正面部 10 の右側面側の辺部（第 2 辺部、第 3 辺部）10 c の下端から上端までの途中位置（第 2 途中位置、第 4 途中位置）Q 1 2 まで直線状に形成され、正面部 10 の下辺に対して傾斜して形成されている。また、正面部 10 の右側面側で下側の角部 R 1 2 から途中位置 P 1 2 までの長さと正面部 10 の左側面側で下側の角部 R 1 2 から途中位置 Q 1 2 までの長さは略同一に形成され、罫線 C 1 2 の正面部 10 の下辺に対する角度は略 45 度となっている。罫線 C 1 2 は、正面部 10 における底面部 50 側で右側面部 30 側の角部（第 2 角部）R 1 2 を含む領域である角部領域（第 2 角部領域）K R 1 2 に形成されている。

30

【0097】

角部 R 1 2 は、正面部 10 の下辺 10 d と正面部 10 の右側面側の辺部 10 c とがなす角部であり、正面部 10 の下辺 10 d と正面部 10 の右側面側の辺部 10 c とがなす先端部分（正面部 10 の下端と右側面側の端部がなす先端部分としてもよい）であり、厳密には、正面部 10 の下辺 10 d の右側面側の端部と正面部 10 の右側面側の辺部 10 c の下端とが接する場合には、正面部 10 の下辺 10 d の右側面側の端部と正面部 10 の右側面側の辺部 10 c の下端とが接する位置であり、該端部と下端が接しない場合には、角部 R 1 2 は、正面部 10 の下辺 10 d の右側面側の端部との距離と正面部 10 の右側面側の辺部 10 c の下端との距離が同一（略同一としてもよい）で、2 つの距離がともに最短となる位置となる。なお、角部 R 1 2 を、正面部 10 の下端と右側面側の端部の位置とを含む領域（正面部 10 の下辺 10 d の右側面側の端部と正面部 10 の右側面側の辺部 10 c の下端を含む領域（先端領域））（角部領域 K R 1 2 よりも小さい領域）としてもよい。

40

【0098】

50

また、角部領域 K R 1 2 は、角部 R 1 2 を含むとともに、正面部 1 0 の下辺 1 0 d と正面部 1 0 の右側面側の辺部 1 0 c とで囲まれた角部 R 1 2 側の領域であり、例えば、途中位置 P 1 2 を通り辺部 1 0 c と平行な仮想線（途中位置 P 1 2 よりも左側面側を通り辺部 1 0 c と平行な仮想線としてもよい）と、途中位置 Q 1 2 を通り下辺 1 0 d と平行な仮想線（途中位置 Q 1 2 よりも上側を通り下辺 1 0 d と平行な仮想線としてもよい）と、辺部 1 0 c と、下辺 1 0 d とで囲まれる方形状の領域であり、この領域内に罫線 C 1 2 が設けられている。なお、角部領域 K R 1 2 は、方形状でなくてもよく、角部 R 1 2 を有する領域で、罫線 C 1 2 を内側に有する領域であればよい。

【0099】

なお、罫線 C 1 2 は、切目線 K 1 0 とは接しておらず、例えば、切目線 K 1 2 d - 3 と罫線 C 1 2 とは間隔を介して形成されている。また、正面部 1 0 の右側面側で下側の角部 R 1 2 と切目線 K 1 2 d とは、罫線 C 1 2 を挟んで互いに反対側に位置している。

【0100】

また、罫線 C 1 2 は、途中位置 P 1 2 や途中位置 Q 1 2 まで形成されていなくてもよく、罫線 C 1 2 の端部が、途中位置 P 1 2 に向かう途中位置まで形成されたものとしてもよく（つまり、罫線 C 1 2 の途中位置 P 1 2 側の端部と途中位置 P 1 2 との間には間隔が形成されている）、また、罫線 C 1 2 の端部が、途中位置 Q 1 2 に向かう途中位置まで形成されたものとしてもよい（つまり、罫線 C 1 2 の途中位置 Q 1 2 側の端部と途中位置 Q 1 2 との間には間隔が形成されている）。つまり、罫線 C 1 2 が、途中位置 P 1 2 と途中位置 Q 1 2 の間の位置に、途中位置 P 1 2 と途中位置 Q 1 2 を結ぶ方向に形成（「直線状に形成」としてもよい）されていればよい。

【0101】

なお、切目線 K 1 2（特に、切目線 K 1 2 d）は、罫線 C 1 2 を挟んで罫線 C 1 2 が形成された角部領域 K R 1 2 における角部 R 1 2 とは反対側に形成されている。

【0102】

罫線 C 1 1、C 1 2 は、正面部 1 0 の内側の面に形成されているとしたが、外側の面に形成してもよい。

【0103】

また、罫線 C 1 1、C 1 2 は、被収納物を収納した包装箱 A を落下させた際に、切目線 K 1 0 が破断するのを防止するために、切目線 K 1 0（特に、切目線 K 1 2）と所定距離以上離れて設けられている。

【0104】

すなわち、図 1 1 に示すように、切目線 K 1 0 は、罫線 C 1 1 と平行で、罫線 C 1 1 を挟んで角部 R 1 1 とは反対側の仮想線 J 1 1 よりも内側（角部 R 1 1 側や罫線 C 1 1 側とは反対側）に形成され、同様に、切目線 K 1 0 は、罫線 C 1 2 と平行で、罫線 C 1 2 を挟んで角部 R 1 2 とは反対側の仮想線 J 1 2 よりも内側（角部 R 1 2 側や罫線 C 1 2 側とは反対側）に形成されている。

【0105】

ここで、仮想線 J 1 1 は、途中位置 P 1 1 を通り辺部 1 0 b と平行な仮想線（直線の仮想線）と途中位置 Q 1 1 を通り下辺 1 0 d と平行な仮想線（直線の仮想線）の交点 W 1 1 a から罫線 C 1 1 への垂線を設け、該垂線と罫線 C 1 1 との交点 W 1 1 b と交点 W 1 1 a 間を結ぶ仮想線（直線の仮想線）の中点（交点 W 1 1 a と交点 W 1 1 b の等距離の点）W 1 1 c を通るとともに、罫線 C 1 1 と平行な仮想線である。つまり、仮想線 J 1 1 は、交点 W 1 1 a から罫線 C 1 1 までの長さの半分の長さを介して罫線 C 1 1 と離れている。

【0106】

また、仮想線 J 1 2 は、途中位置 P 1 2 を通り辺部 1 0 c と平行な仮想線（直線の仮想線）と途中位置 Q 1 2 を通り下辺 1 0 d と平行な仮想線（直線の仮想線）の交点 W 1 2 a から罫線 C 1 2 への垂線を設け、該垂線と罫線 C 1 2 との交点 W 1 2 b と交点 W 1 2 a 間を結ぶ仮想線（直線の仮想線）の中点（交点 W 1 2 a と交点 W 1 2 b の等距離の点）W 1 2 c を通るとともに、罫線 C 1 2 と平行な仮想線である。つまり、仮想線 J 1 2 は、交点

W 1 2 a から罫線 C 1 2 までの長さの半分の長さを介して罫線 C 1 2 と離れている。

【 0 1 0 7 】

このように、切目線 K 1 0 は、罫線 C 1 1、C 1 2 と所定距離離れて形成されているので、包装箱 A が落下して正面部 1 0 が罫線 C 1 1 や罫線 C 1 2 を介して折れ曲がっても、切目線 K 1 0 (特に、切目線 K 1 2) の破断をより確実に防止することができる。

【 0 1 0 8 】

また、包装箱 A においては、背面部 4 0 に折れ線 C 4 2、C 4 3 が設けられ、左側面部 2 0 には、折れ線 C 2 1 が設けられ、右側面部 3 0 には、折れ線 C 3 1 が設けられ、糊代部 4 9 に折れ線 C 4 9 が設けられている。

【 0 1 0 9 】

すなわち、折れ線 (第 1 折れ線) C 4 2 は、切目線 K 4 1 と切目線 K 4 4 の接点の位置から背面部 4 0 の横方向における外側 (左側面側) に向けて斜め上方に直線状に形成され、折れ線 C 4 2 の上側の端部は、背面部 4 0 の左側面側上端の角部に位置している。具体的には、背面部 4 0 の内側の面に折れ線 C 4 2 に沿って折曲げ用の罫線が形成されている。

10

【 0 1 1 0 】

また、折れ線 (第 2 折れ線) C 4 3 は、切目線 K 4 1 と切目線 K 4 5 の接点の位置から背面部 4 0 の横方向における外側 (右側面側) に向けて斜め上方に直線状に形成され、折れ線 C 4 3 の上側の端部は、背面部 4 0 の右側面側上端の角部に位置している。具体的には、背面部 4 0 の内側の面に折れ線 C 4 3 に沿って折曲げ用の罫線が形成されている。

20

【 0 1 1 1 】

つまり、折れ線 C 4 2 は、背面部 4 0 の左側面側上端の角部から形成され、折れ線 C 4 3 は、背面部 4 0 の右側面側上端の角部から形成され、切目線 K 4 0 側にいくに従い折れ線 C 4 2 と折れ線 C 4 3 間の長さが短くなるように形成されている。折れ線 C 4 2 に沿って形成された罫線は、背面部 4 0 の左側面側上端の角部から切目線 K 4 0 まで形成されているが、該罫線の下端と切目線 4 0 との間に間隔を設ける構成でもよく、該罫線の上端と背面部 4 0 の左側面側上端の角部との間に間隔を設ける構成でもよい。つまり、背面部 4 0 の左側面側上端の角部である (第 3 角部) と切目線 K 4 0 の左側面側の端部から右側面側の端部までの途中位置 (第 5 途中位置) (具体的には、切目線 K 4 1 と切目線 K 4 4 の接点の位置) の間の位置に第 3 角部と第 5 途中位置とを結ぶ方向に形成されていればよい。

30

【 0 1 1 2 】

同様に、折れ線 C 4 3 に沿って形成された罫線は、背面部 4 0 の右側面側上端の角部から切目線 K 4 0 まで形成されているが、該罫線の下端と切目線 4 0 との間に間隔を設ける構成でもよく、該罫線の上端と背面部 4 0 の右側面側上端の角部との間に間隔を設ける構成でもよい。つまり、背面部 4 0 の右側面側上端の角部である (第 4 角部) と切目線 K 4 0 の右側面側の端部から左側面側の端部までの途中位置で第 5 途中位置よりも右側面側の途中位置 (第 6 途中位置) (具体的には、切目線 K 4 1 と切目線 K 4 5 の接点の位置) の間の位置に第 4 角部と第 6 途中位置とを結ぶ方向に形成されていればよい。

【 0 1 1 3 】

また、折れ線 (第 3 折れ線) C 2 1 は、切目線 K 2 4 の途中位置 (すなわち、背面側の端部から正面側の端部への途中位置) から背面側に向けて斜め上方に直線状に形成され、折れ線 C 2 1 の上側の端部は、左側面部 2 0 の背面上側の角部に位置している。つまり、折れ線 C 2 1 は、左側面部 2 0 の背面側上端の角部から切目線 K 2 4 の途中位置に向けて形成されている。具体的には、左側面部 2 0 の内側の面に折れ線 C 2 1 に沿って折曲げ用の罫線が形成されている。該罫線の一方の端部は、左側面部 2 0 の背面上側の角部 (第 5 角部) に位置し、該罫線の他方の端部は、切目線 K 2 4 の途中位置 (第 7 途中位置) に位置するが、罫線は、左側面部 2 0 の背面上側の角部や切目線 K 2 4 の途中位置まで形成されていなくてもよく、罫線の端部が、該角部に向かう途中位置まで形成されたものとしてもよく (つまり、罫線の該角部側の端部と該角部との間には間隔が形成されている)、ま

40

50

た、罫線の端部が、切目線 K 2 4 の途中位置に向かう途中位置まで形成されたものとしてもよい（つまり、罫線の切目線 K 2 4 の途中位置側の端部と切目線 K 2 4 の途中位置との間には間隔が形成されている）。つまり、罫線（折れ線 C 2 1 としてもよい）が、左側面部 2 0 の背面上側の角部と切目線 K 2 4 の途中位置との間の位置に、左側面部 2 0 の背面上側の角部と切目線 K 2 4 の途中位置を結ぶ方向に直線状に形成されていればよい。

【0114】

また、折れ線（第 4 折れ線）C 3 1 は、切目線 K 3 4 の途中位置（すなわち、背面側の端部から正面側の端部への途中位置）から背面側に向けて斜め上方に直線状に形成され、折れ線 C 3 1 の上側の端部は、右側面部 3 0 の背面上側の角部に位置している。つまり、折れ線 C 3 1 は、右側面部 3 0 の背面側上端の角部から切目線 K 2 4 の途中位置に向けて形成されている。具体的には、右側面部 3 0 の内側の面に折れ線 C 3 1 に沿って折曲げ用の罫線が形成されている。該罫線の一方の端部は、右側面部 3 0 の背面上側の角部（第 6 角部）に位置し、該罫線の他方の端部は、切目線 K 3 4 の途中位置（第 8 途中位置）に位置するが、罫線は、右側面部 3 0 の背面上側の角部や切目線 K 3 4 の途中位置まで形成されていなくてもよく、罫線の端部が、該角部に向かう途中位置まで形成されたものとしてもよく（つまり、罫線の該角部側の端部と該角部との間には間隔が形成されている）、また、罫線の端部が、切目線 K 3 4 の途中位置に向かう途中位置まで形成されたものとしてもよい（つまり、罫線の切目線 K 3 4 の途中位置側の端部と切目線 K 3 4 の途中位置との間には間隔が形成されている）。つまり、罫線（折れ線 C 3 1 としてもよい）が、右側面部 3 0 の背面上側の角部と切目線 K 3 4 の途中位置との間の位置に、右側面部 3 0 の背面上側の角部と切目線 K 3 4 の途中位置を結ぶ方向に直線状に形成されていればよい。

【0115】

また、折れ線 C 4 9 は、糊代部 4 9 の上側で背面部 4 0 側の角部から折れ線 C 4 8 に対して傾斜して直線状に形成され、折れ線 C 4 9 の折れ線 C 4 8 に対する角度は、折れ線 C 3 1 の右側面部 3 0 の背面側の辺部に対する角度と同一に形成され、包装箱 A を組み立てた状態では、折れ線 C 4 9 は、折れ線 C 3 1 に沿って設けられる。糊代部 4 9 の内側の面には、折れ線 C 4 9 に沿って折曲げ用の罫線が形成されている。なお、折れ線 C 4 9 に沿った罫線は、糊代部 4 9 の上側で背面部 4 0 側の角部まで形成されていなくてもよく、罫線と該角部間に間隔が形成されていてもよい。

【0116】

また、上記のように、切目線 K 5 における上記の各切目線や上記の各折れ線が形成されていることにより、包装箱 A を構成する各部は以下のように区画される。

【0117】

すなわち、正面部 1 0 における枠状部 1 2 における切目線 K 1 5、K 1 6 よりも下側の部分が下正面部 1 2 a となり、正面部 1 0 の枠状部 1 2 における切目線 K 1 5、K 1 6 よりも上側の部分が上正面部 1 2 b となる。下正面部 1 2 a は、略 U 字状に形成され、左右両側を除く部分が低く形成されている。

【0118】

また、左側面部 2 0 における切目線 K 2 0 よりも下側の部分が下左側面部 2 2 となり、左側面部 2 0 における切目線 K 2 0 よりも上側の部分が上左側面部 2 5 となる。また、上左側面部 2 5 において、折れ線 C 2 1 よりも正面側の領域が正面側領域（第 1 正面側領域）2 6 となり、折れ線 C 2 1 よりも背面側の領域が背面側領域（第 1 背面側領域）2 7 となる。つまり、上左側面部 2 5 は、折れ線 C 2 1 を介して、正面側領域 2 6 と背面側領域 2 7 とに区画されている。

【0119】

また、右側面部 3 0 における切目線 K 3 0 よりも下側の部分が下右側面部 3 2 となり、右側面部 3 0 における切目線 K 3 0 よりも上側の部分が上右側面部 3 5 となる。また、上右側面部 3 5 において、折れ線 C 3 1 よりも正面側の領域が正面側領域（第 2 正面側領域）3 6 となり、折れ線 C 3 1 よりも背面側の領域が背面側領域（第 2 背面側領域）3 7 となる。つまり、上右側面部 3 5 は、折れ線 C 3 1 を介して、正面側領域 3 6 と背面側領域

37とに区画されている。

【0120】

また、背面部40における切目線K40よりも下側の部分が下背面部42となり、背面部40における切目線K40よりも上側の部分が上背面部45となる。また、下背面部42において切目線K41、K44、K45と折れ線C41により囲まれた領域が押し部44となり、下背面部42における押し部44以外の領域が下背面部本体43となる。また、上背面部45において、折れ線C42と折れ線C43により挟まれた領域が中央領域46となり、折れ線C42よりも左側面側の領域が左側領域47となり、折れ線C43よりも右側面側の領域が右側領域48となる。つまり、上背面部45は、折れ線C42と折れ線C43を介して、中央領域46と左側領域47と右側領域48とに区画されている。

10

【0121】

なお、折れ線C42としての罫線の下端と切目線40との間に間隔を設け、折れ線C42としての罫線の上端と背面部40の左側面側上端の角部との間に間隔を設ける構成とし、折れ線C43としての罫線の下端と切目線40との間に間隔を設け、折れ線C43としての罫線の上端と背面部40の右側面側上端の角部との間に間隔を設ける構成とした場合には、中央領域46は、厳密には、「折れ線C42又は折れ線C42及びその延長線と折れ線C43又は折れ線C43及びその延長線の間の領域」といえるが、その場合も、中央領域46は、折れ線C42と折れ線C43間の領域であるといえる。

【0122】

糊代部49における切目線K49よりも下側の部分が糊代下側部49-1となり、糊代部49における切目線K49よりも上側の部分が糊代上側部49-2となる。

20

【0123】

また、底面部50は、第1片部160と、第2片部170と、第3片部180と、第4片部190とを有し、包装箱Aの組立て状態においては、略方形状の外形を呈している。

【0124】

ここで、第1片部160は、正面部10の下辺から折れ線を介して連設され、方形状（具体的には、長方形状）における先端側の一对の角部を斜めに面取りした形状を呈している。第1片部160の基端（正面部10側の辺部）から先端（正面部10側とは反対側の辺部）までの長さは、左側面部20の横方向の長さ（折れ線C20と折れ線C40間の長さ）の半分の長さ（略半分の長さとしてもよい）を有し、包装箱Aを組み立てた状態では、第1片部160の先端と第4片部190の先端とが当接し、第1片部160と第4片部190とでスリーブ状部5の底面側を閉じるようになっている。

30

【0125】

また、第2片部170は、左側面部20の下辺から折れ線を介して連設され、方形状（具体的には、長方形状）を呈している。第2片部170の基端（左側面部20側の辺部）から先端（左側面部20側とは反対側の辺部）までの長さは、正面部10や背面部40の横方向の長さ（例えば、折れ線C20と折れ線C30間の長さ）の半分よりも小さく形成され、包装箱Aを組み立てた状態では、第2片部170の先端と第3片部180の先端の間には隙間が形成される。

【0126】

また、第3片部180は、右側面部30の下辺から折れ線を介して連設され、第2片部170と同大同形状に形成され、方形状（具体的には、長方形状）を呈している。第3片部180の基端（右側面部30側の辺部）から先端（右側面部30側とは反対側の辺部）までの長さは、正面部10や背面部40の横方向の長さ（例えば、折れ線C20と折れ線C30間の長さ）の半分よりも小さく形成され、包装箱Aを組み立てた状態では、第2片部170の先端と第3片部180の先端の間には隙間が形成される。

40

【0127】

また、第4片部190は、背面部40の下辺から折れ線を介して連設され、第1片部160と同大同形状に形成され、方形状（具体的には、長方形状）における先端側の一对の角部を斜めに面取りした形状を呈している。第4片部190の基端（背面部40側の辺部）

50

）から先端（背面部 40 側とは反対側の辺部）までの長さは、左側面部 20 の横方向の長さ（折れ線 C 20 と折れ線 C 40 間の長さ）の半分の長さ（略半分の長さとしてもよい）を有し、第 1 片部 160 の先端と第 4 片部 190 の先端とが当接し、第 1 片部 160 と第 4 片部 190 とでスリーブ状部 5 の底面側を閉じるようになっている。

【0128】

包装箱 A を組み立てた状態では、第 1 片部 160 と第 4 片部 190 は、第 2 片部 170 及び第 3 片部 180 の外側に設けられ、第 1 片部 160 の内側の面が、第 2 片部 170 及び第 3 片部 180 の面に接着され、第 4 片部 190 の内側の面が、第 2 片部 170 及び第 3 片部 180 の面に接着される（図 2 参照）。

【0129】

また、蓋部 110、140 とフラップ部 120、130 は、包装箱 A の展開状態において、底面部 50 を構成する第 1 片部 160 ~ 第 4 片部 190 と線対称に形成されている。

【0130】

すなわち、蓋部 110 は、正面部 10 の上辺から折れ線 C 110 を介して連設され、方形状（具体的には、長方形）における先端側の一对の角部を斜めに面取りした形状を呈している。蓋部 110 の基端（正面部 10 側の辺部）から先端（正面部 10 側とは反対側の辺部）までの長さは、左側面部 20 の横方向の長さ（折れ線 C 20 と折れ線 C 40 間の長さ）の半分の長さ（略半分の長さとしてもよい）を有し、蓋部 110 と蓋部 140 を閉じることにより、蓋部 110 の先端と蓋部 140 の先端とが当接し、蓋部 110 と蓋部 140 とで包装箱 A を閉状態とする。なお、折れ線 C 110 に沿って内側の面に折曲げ用の罫線が形成されている。

【0131】

また、フラップ部 120 は、左側面部 20 の上辺から折れ線 C 120 を介して連設され、方形状（具体的には、長方形）を呈している。フラップ部 120 の基端（左側面部 20 側の辺部）から先端（左側面部 20 側とは反対側の辺部）までの長さは、正面部 10 や背面部 40 の横方向の長さ（例えば、折れ線 C 20 と折れ線 C 30 間の長さ）の半分よりも小さく形成され、包装箱 A の上面を閉状態にした場合には、フラップ部 120 の先端とフラップ部 130 の先端の間には隙間が形成される。なお、折れ線 C 120 に沿って内側の面に折曲げ用の罫線が形成されている。

【0132】

また、フラップ部 130 は、右側面部 30 の上辺から折れ線 C 130 を介して連設され、フラップ部 120 と同大同形状に形成され、方形状（具体的には、長方形）を呈している。フラップ部 130 の基端（右側面部 30 側の辺部）から先端（右側面部 30 側とは反対側の辺部）までの長さは、正面部 10 や背面部 40 の横方向の長さ（例えば、折れ線 C 20 と折れ線 C 30 間の長さ）の半分よりも小さく形成され、包装箱 A の上面を閉状態にした場合には、フラップ部 120 の先端とフラップ部 130 の先端の間には隙間が形成される。なお、折れ線 C 130 に沿って内側の面に折曲げ用の罫線が形成されている。

【0133】

また、蓋部 140 は、背面部 40 の上辺から折れ線 C 140 を介して連設され、蓋部 110 と同大同形状に形成され、方形状（具体的には、長方形）における先端側の一对の角部を斜めに面取りした形状を呈している。第 4 片部 190 の基端（背面部 40 側の辺部）から先端（背面部 40 側とは反対側の辺部）までの長さは、左側面部 20 の横方向の長さ（折れ線 C 20 と折れ線 C 40 間の長さ）の半分の長さ（略半分の長さとしてもよい）を有し、蓋部 110 と蓋部 140 を閉じることにより、蓋部 110 の先端と蓋部 140 の先端とが当接し、蓋部 110 と蓋部 140 とで包装箱 A を閉状態とする。なお、折れ線 C 140 に沿って内側の面に折曲げ用の罫線が形成されている。

【0134】

以上のように、これら蓋部 110、140 とフラップ部 120、130 は、包装箱 A の上面を開閉するものであり、特に、蓋部 110、140 を閉状態とすることにより包装箱

10

20

30

40

50

Aの上面が塞がれる。なお、蓋部110、140とフラップ部120、130は、予め上方に立設した状態になっていて、包装箱Aの上方が開口した状態になっている。なお、蓋部110、140は、正面部10の上辺及び背面部40の上辺から連設されているが、包装箱Aの上面を閉じるための蓋部は、スリーブ状部5を構成する各部における少なくとも1つの上辺から連設されていけばよい。

【0135】

上記構成の包装箱Aの使用方法について説明する。包装箱Aを組み立てた状態では、図1～図4に示す状態となり、底面部50が略平板状となり、スリーブ状部5を構成する各部材（正面部10、左側面部20、右側面部30、背面部40）における隣接する部材は互いに直角となる。また、正面部10と背面部40とが互いに平行であり、左側面部20と右側面部30とが互いに平行となる。

10

【0136】

そして、包装箱Aの上方から被収納物（商品）Gを収納する。なお、蓋部110、140とフラップ部120、130はスリーブ状部5に対して予め上方に立設した状態になっていて、包装箱Aの上方が開口した状態になっているので、被収納物Gはそのまま包装箱Aの上方から収納すればよい。その後、フラップ部120、130を内側に折曲させるとともに蓋部110、140を内側に折曲させて、蓋部110、140を閉状態とし、接着テープTを左側面部20から上面を経て右側面部30にまで接着させることにより、図12に示す状態とする。つまり、図12に示す状態では、蓋部110、140が閉状態で固定されている。

20

【0137】

以上のようにして、蓋部110、140を閉状態にして被収納物を包装箱Aに包装したら、被収納物Gを収納した包装箱Aを被収納物Aを陳列する場所に搬送する。

【0138】

なお、被収納物を収納した包装箱Aの搬送に際して、包装箱Aを落下させた場合でも、正面部10に罫線C11、C12が設けられているので、落下の衝撃により罫線C11、C12を介して正面部10が折れ曲がり、罫線C11、C12を介して正面部10が折れ曲がる（外側から見て罫線C11、C12が山折りとなる）ことにより落下の衝撃を吸収することから、正面部10において周状に形成された切目線K12（特に、切目線K12の中でも、底面側に近い切目線K12d）の破断を防止することができる。なお、罫線C11、C12は正面部10の内側の面に形成されているので、正面部10は罫線C11、C12を介して外側から見て山折りになりやすい。

30

【0139】

なお、落下の態様により、罫線C11と罫線C12の2つの罫線を介して正面部10が折れ曲がることもあれば、2つの罫線のうちの一方を介して正面部10が折れ曲がることもある。すなわち、例えば、左側面側で下側の角部R11を下側にして落下した場合には、罫線C11を介して正面部10が折れ曲がり、右側面側で下側の角部R12を下側にして落下した場合には、罫線C12を介して正面部10が折れ曲がり、角部R11と角部R12を同じ高さにして落下した場合には、罫線C11と罫線C12を介して正面部10が折れ曲がる。

40

【0140】

すなわち、被収納物の重量が重い場合には、罫線C11、C12が設けられていないと落下の衝撃が直接切目線K12に伝わって、切目線K12dが破断するおそれがあるが、包装箱Aには罫線C11、C12が設けられているので、そのようなおそれがない。

【0141】

また、左側面部20における底面部50側で正面部10側の角部を含む領域である角部領域には、罫線が形成されておらず（例えば、包装箱Aの展開状態において、折れ線C20を介して罫線C11と線対称な罫線は設けられていない）、右側面部30における底面部50側で正面部10側の角部を含む領域である角部領域には、罫線が形成されておらず（例えば、包装箱Aの展開状態において、折れ線C30を介して罫線C12と線対称な罫

50

線は設けられていない)、また、第1片部160における正面部10側の角部を含む領域である角部領域(つまり、左側面部20側の角部領域と右側面部30側の角部領域)には、罫線が形成されておらず(例えば、包装箱Aの展開状態において、正面部10の下辺を介して罫線C11と線対称な罫線や罫線C12と線対称な罫線は設けられていない)、これにより、罫線C11が設けられた角部や罫線C12が設けられた角部の強度を維持することができる。

【0142】

つまり、罫線C11、C12以外に左側面部20、右側面部30、第1片部160の角部領域に上記のような罫線が設けられている場合には、衝撃により角部(3面からなる角部)は屈曲しやすくなるが、逆に、該角部が屈曲しやすいために切目線K12が破断しやすくなるという問題があり、本実施例の場合には、正面部10の底面部50側の角部のみに罫線が形成されているので、そのような問題がない。

10

【0143】

包装箱Aを陳列場所においては、開口蓋部14を正面部10から取り除くことにより、図13に示すように、収納された被収納物を確認することができる被収納物確認可能とすることができる。

【0144】

すなわち、押し部18を押して切目線K14を破断し、切目線K14を破断することにより開口蓋部本体16の上端に形成された半円状の切欠部に指を入れて、開口蓋部本体16の上端領域を下方の正面側にひっぱることにより、切目線K12が破断し(切目線K12aが破断し、次に、切目線K12b、12cが破断し、次に、切目線K12dが破断する)、開口蓋部本体16が取り除かれる。押し部18が枠状部12に接続されている場合には、押し部18と枠状部12間の切目線(切目線K12aの一部)を破断して、押し部18を取り除く。

20

【0145】

以上のようにして、開口蓋部14を正面部10から取り除くことにより、正面部10の一部が開口されて開口部19が形成され、包装箱Aの内部に収納された被収納物を確認することができる。このように、被収納物確認可能状態の使用態様としては、例えば、被収納物を収納した複数の包装箱を積み上げた状態で、最上段以外の包装箱Aについては、開口蓋部14を取り除いて被収納物確認可能状態とすることにより、収納された被収納物を確認することができる。

30

【0146】

次に、被収納物を陳列した状態とするには、以下に説明するように、包装箱Aの上側構成部A-2を取り除く。なお、開口蓋部14は予め取り除かれているものとする。

【0147】

すなわち、背面部40における押さえ部44を押して押さえ部44を折れ線C41を介して内側に回動させる。つまり、押さえ部44を内側に押すことにより、切目線K41が破断し、押さえ部44が折れ線C41を介して回動する。すると、中央領域46の下側に指を入れるスペースが形成されるので、中央領域46の下側に一方の手の指を挿入して、中央領域46の下端に指をひっかける。

40

【0148】

その後、中央領域46の下端を外側にひっぱることにより、左側領域47及び右側領域48が中央領域46側から徐々にひっぱられて、切目線K42、K43が破断する。中央領域46の下端を外側にひっぱった状態では、折れ線C42、C43は外側から見て山折りの状態となる。つまり、左側領域47が中央領域46に対して折れ線C42を介して内側に折曲するとともに、右側領域48が中央領域46に対して折れ線C43を介して内側に折曲する。特に、折れ線C42、C43が設けられているので、左側領域47の切目線K42に沿った辺部と右側領域48の切目線K43に沿った辺部が前後方向に傾斜しやすく切目線K42、K43が容易となる。

【0149】

50

その後、中央領域 4 6 の下端を外側にさらにひっぱることにより、切目線 K 2 4 における下左側面部 2 2 と背面側領域 2 7 間の部分の切目線 K 2 4 - 1 が背面側から破断していき、切目線 K 3 4 における下右側面部 3 2 と背面側領域 3 7 間の部分の切目線 K 3 4 - 1 が背面側から破断していく（図 1 4 参照）。

【 0 1 5 0 】

つまり、中央領域 4 6 の下端を外側にひっぱることにより、背面側領域 2 7 が折れ線 C 2 1 を介して内側に回動して下左側面部 2 2 と背面側領域 2 7 とが横方向に離間しようとするとともに、背面側領域 3 7 が折れ線 C 3 1 を介して内側に回動して下右側面部 3 2 と背面側領域 3 7 とが横方向に離間しようとして、切目線 K 2 4 - 1、K 3 4 - 1 が破断する。その際、背面側領域 2 7 が折れ線 C 2 1 を介して内側に回動し（つまり、背面側領域 2 7 が正面側領域 2 6 に対して折れ線 C 2 1 を介して内側に折曲する）、背面側領域 3 7 が折れ線 C 3 1 を介して内側に回動する（つまり、背面側領域 3 7 が正面側領域 3 6 に対して折れ線 C 2 1 を介して内側に折曲する）ので、折れ線 C 2 1 と折れ線 C 3 1 は外側から見て山折りの状態となる。特に、折れ線 C 2 1、C 3 1 が設けられているので、背面側領域 2 7、3 7 が折れ線 C 2 1、C 3 1 を介して回動しやすく、切目線 K 2 4 - 1、K 3 4 - 1 を破断しやすくすることができる。

【 0 1 5 1 】

なお、切目線 K 4 2、K 4 3 と切目線 K 2 4 - 1、K 3 4 - 1 は中央領域 4 6 の下端を外側にひっぱることにより破断されるので、実際には、中央領域 4 6 の下端を外側にひっぱるという 1 つの動作により、切目線 K 4 2、K 4 3 から切目線 K 2 4 - 1、K 3 4 - 1 まで（切目線 K 2 4 - 1、K 3 4 - 1 の正面側の端部まで）を破断させることができる。つまり、下背部 4 2 における一对の切目線 K 4 4、K 4 6 間の領域である押さえ部 4 4 を外側から押して、中央領域 4 6 の下端に指をひっかけ、中央領域 4 6 の下端を外側にひっぱることにより、右側領域 4 7 と下背部 4 2 間の切目線 K 4 2 と左側領域 4 8 と下背部 4 2 間の切目線 K 4 3 とが破断し、上左側面部 2 5 における折れ線 C 2 1 よりも背面側の領域である背面側領域 2 7 が折れ線 C 2 1 を介して内側に回動して切目線 K 2 4 - 1（切目線 K 2 4 における背面側領域 2 7 と下左側面部 2 2 間の切目線）が破断するとともに、上右側面部 3 5 における折れ線 C 3 1 よりも背面側の領域である背面側領域 3 7 が折れ線 C 3 1 を介して内側に回動して切目線 K 3 4 - 1（切目線 K 3 4 における背面側領域 3 7 と下右側面部 3 2 間の切目線）が破断する。破断の順序としては、中央領域 4 6 の下端を外側にひっぱることにより切目線 K 4 2、K 4 3 が内側から破断し、その後、切目線 K 2 4 - 1、K 3 4 - 1 が背面側から破断する。

【 0 1 5 2 】

なお、切目線 K 2 4 - 1、K 3 4 - 1 を破断する際に、中央領域 4 6 の下端を外側にさらにひっぱるとともに、中央領域 4 6 を上方に引き上げる動作を行なうことにより、下左側面部 2 2 と背面側領域 2 7 とが縦方向に離間しようとするとともに、下右側面部 3 2 と背面側領域 3 7 とが縦方向に離間しようとするので、切目線 K 2 4 - 1、K 3 4 - 1 が破断していく。つまり、横方向の離間動作のみならず縦方向の離間動作を得ることができるので、切目線 K 2 4 - 1、K 3 4 - 1 を破断しやすくすることができる。

【 0 1 5 3 】

その後、図 1 5 に示すように、中央領域 4 6 を持つ手を上方に引き上げるることにより、切目線 K 2 4、K 3 4 が正面側に向けて破断していく。つまり、切目線 K 2 4 における下左側面部 2 2 と正面側領域 2 6 間の部分の切目線 K 2 4 - 2 と、切目線 K 3 4 における下右側面部 3 2 と正面側領域 3 6 間の部分の切目線 K 3 4 - 2 とを正面側の端部位置まで破断していく。その際、図 1 5 に示すように、他方の手で下側構成部 A - 1 の背面側の箇所を押さえた状態とするのが好ましい。つまり、左手で押さえる場合には、図 1 5 に示すように、下背部 4 2 と下左側面部 2 2 の角部の上端を押さえ、右手で押さえる場合（この場合は、中央領域 4 6 を左手で引き上げる）には、下背部 4 2 と下右側面部 3 2 の角部の上端を押さえる。

【 0 1 5 4 】

切目線 K 2 4 は、切目線 K 2 4 - 1 と切目線 K 2 4 - 2 とから構成され、切目線 K 3 4 は、切目線 K 3 4 - 1 と切目線 K 3 4 - 2 とから構成されている。

【 0 1 5 5 】

切目線 K 2 4、K 3 4 を正面側に破断していく際に、切目線 K 2 4、K 3 4 が正面側にいくに従い上方となるように水平方向に対して傾斜して形成されているので、切目線 K 2 4、K 3 4 を破断しやすくすることができる。つまり、切目線 K 2 4、K 3 4 が正面側に向けて上方に形成されているので、上側構成部 A - 2 の背面側の端部を持ち上げる動作で切目線 K 2 4、K 3 4 を破断でき、上側構成部 A - 2 の背面側の端部を持ち上げる動作は力を入れやすく、また、破断箇所にかかる力の方向が、切目線の破断方向に対する直角方向よりも破断方向（切目線に沿った方向で、破断する側への方向）に傾斜している（破断箇所にかかる力の方向と破断方向とがなす角度が鋭角となる）ので、切目線をより破断しやすくすることができる。つまり、破断箇所にかかる力 F の方向を鉛直方向（水平方向に対する直角方向）とすると（中央領域 4 6 を上方に引き上げるので、破断箇所にかかる力 F の方向を鉛直方向（水平方向に対する直角方向）となる）、破断箇所にかかる力 F の方向と破断方向とがなす角度 α は鋭角となり、図 1 8 (a) に示すように、破断箇所にかかる力 F は、破断方向と直角方向の成分 F 1 と、破断方向への成分 F 2 とに分けられ、成分 F 1 のみならず成分 F 2 が存在するので、破断が容易となる。この場合と比較して、切目線の方法が水平方向の場合には、図 1 8 (b) のように、破断箇所にかかる力 F の方向と破断方向とがなす角度 α が直角となり、破断方向に直角の力のみとなり、破断方向への力の成分がないため、図 1 8 (a) の場合に比べて破断が困難となる。また、切目線の方法が破断方向に向けて下降している場合には、図 1 8 (c) のように、破断箇所にかかる力 F の方向と破断方向とがなす角度 α が鈍角となり、破断箇所にかかる力 F は、破断方向と直角方向の成分 F 1 と破断方向と反対方向の成分 F 2 に分けられるため、図 1 8 (b) の場合に比べてさらに破断が困難となる。なお、図 1 8 においては、切目線を模式的に直線により示している。

10

20

【 0 1 5 6 】

なお、切目線 K 4 2 における複数の切込み 2 1 0 の配設方向は、切目線 K 4 1 側から背面部 4 0 の左側面側の端部（切目線 K 2 4 側）にいくに従い上側となるように斜め上方に傾斜しており、切目線 K 4 3 における複数の切込み 2 2 0 の配設方向は、切目線 K 4 1 側から背面部 4 0 の右側面側の端部にいくに従い上側となるように斜め上方に傾斜しているので、切目線 K 2 4、K 3 4 の場合と同じ理由で破断しやすいといえる。つまり、中央領域 4 6 の下端を外側にひっぱることにより、中央領域 4 6 は背面部 4 0 の上辺を中心に回転するので、中央領域 4 6 の下端は上下方向では上側にひっぱられ、中央領域 4 6 の下端が上側にひっぱられるに伴い、左側領域 4 7 と右側領域 4 8 の下端も上側にひっぱられるが、破断箇所にかかる力の方向が、切目線の破断方向に対する直角方向よりも破断方向（切目線に沿った方向で、破断する側への方向）に傾斜している（破断箇所にかかる力の方向と破断方向とがなす角度が鋭角となる）ので、切目線をより破断しやすくすることができる。

30

【 0 1 5 7 】

切目線 K 2 4、K 3 4 の正面側の端部位置にまで破断したら、中央領域 4 6 を正面側斜め上方に引き上げるにより、上側構成部 A - 2 が切目線 K 2 2、K 3 2 の正面側の端部位置を中心に回転しながら切目線 K 2 2、K 3 2 が破断されるので、その後、上側構成部 A - 2 をさらに正面側（又は正面下側）にひっぱることにより、切目線 K 1 5、K 1 6 が破断されて、上側構成部 A - 2 が下側構成部 A - 1 と分離される。

40

【 0 1 5 8 】

上側構成部 A - 2 を取り外した状態は、図 1 6、図 1 7 に示すようになり、下側構成部 A - 1 に被収納物 G が収納された状態となるので、この状態で、被収納物 G を陳列する。以上のようにして、被収納物確認可能状態から被収納物陳列状態とすることができる。図 1 6、図 1 7 に示す状態が、被収納物陳列状態となる。

【 0 1 5 9 】

50

なお、下正面部 12a は、略 U 字状に形成され、左右両側を除く部分が低く形成されているので、被収納物 G を正面側から視認しやすくなっている。また、下側構成部 A - 1 の上方は開口しているので、被収納物 G を取り出す場合には、被収納物 G を上方に引き出して取り出せばよい。

【0160】

なお、上記の説明では、開口蓋部 14 を正面部 10 から取り除いた状態で、上側構成部 A - 2 を取り除くものとして説明したが、開口蓋部 14 が正面部 10 に設けられた状態で上側構成部 A - 2 及び開口蓋部 14 を取り除くようにしてもよい。

【0161】

その場合も上記で説明した上側構成部 A - 2 を取り除く操作と同じ操作を行い、正面部 10 においては、上記のように切目線 K 15、K 16 を破断したら、上側構成部 A - 2 をさらに正面側（又は正面下側）にひっぱることにより、切目線 K 12b の切目線 K 15 よりも下側の部分と、切目線 K 12c の切目線 K 16 よりも下側の部分と、切目線 K 12d が破断して、上側構成部 A - 2 及び開口蓋部 14 が取り除かれる。この場合には、正面部 10 における切目線 K 12b の切目線 K 15 よりも上側の部分と、切目線 K 12c の切目線 K 16 よりも上側の部分と、切目線 K 12a は破断されていない。

【0162】

なお、包装箱 A では、上側構成部 A - 2 を取り除くものであり、帯状のジッパーを取り除く構成ではないため、帯状のジッパーが廃棄物として発生せず、上側構成部 A - 2 のみを廃棄すればよい。つまり、2 本の平行な切目線を周状に形成して帯状のジッパーを設けた構成の場合には、ジッパーの上側の部分とジッパー自体の 2 つの廃棄物が発生するが、本実施例の場合には、廃棄物としては、上側構成部 A - 2 のみとすることができる。

【0163】

以上のように、本実施例の包装箱 A によれば、罫線 C 11、C 12 が設けられているので、被収納物を収納した包装箱 A を落下させても切目線 K 12（特に、切目線 K 12d）が破断してしまうことがない。

【0164】

また、押さえ部 44 を押すことにより、中央領域 46 の下側に指を入れるスペースが形成されるので、包装箱 A の上側構成部 A - 2 を取り除く際に、最初に指を引っ掛ける操作を容易に行なうことができる。

【0165】

また、上記のように、折れ線 C 42、C 43 が設けられているので、切目線 K 42、K 43 の破断が容易であり、折れ線 C 21、C 31 が設けられているので、切目線 K 24 - 1、K 34 - 1 の破断が容易となり、中央領域 46 の下端を外側にひっぱるという 1 つの動作により、切目線 K 42、K 43 から切目線 K 24 - 1、K 34 - 1 までを破断させることができる。また、切目線 K 24、K 34 が正面側にいくに従い上方となるように水平方向に対して傾斜して形成されているので、切目線 K 24、K 34 の破断が容易とすることができる。以上のようにして、最初に指を引っ掛ける操作の後の切目線の切断を容易に行なうことができる。

【0166】

なお、罫線 C 11、C 12 の正面部 10 の下辺に対する角度は略 45 度であるとしたが、これには限られず、罫線 C 11 は、正面部 10 の下側で左側面側の角部に正面部 10 の下辺に対して傾斜して形成されていればよく、また、罫線 C 12 は、正面部 10 の下側で右側面側の角部に正面部 10 の下辺に対して傾斜して形成されていればよい。

【0167】

また、罫線 C 11、C 12 は正面部 10 の下側の角部に設けられているとしたが、スリーブ状部 5 における他の部材（左側面部 20、右側面部 30、背面部 40）にも設けるようにしてもよい。すなわち、上記の例とは異なり、切目線 K 5 が底面部 50 の近くに形成された構成の場合には、罫線 C 11、C 12 と同様の構成の罫線を形成することにより、包装箱 A を落下させた場合に、切目線 K 5 の破断を防止することができる。

【 0 1 6 8 】

また、上記の説明において、切目線 K 2 4 は、背面側から正面側にいくに従い上方となるように直線状に形成されているとしたが、背面側から正面側にいくに従い上方となるように曲線状に形成してもよく（例えば、正面側に向けて傾斜角度が大きくなるように円弧状に形成する）、同様に、切目線 K 3 4 は、背面側から正面側にいくに従い上方となるように直線状に形成されているとしたが、背面側から正面側にいくに従い上方となるように曲線状に形成してもよい（例えば、正面側に向けて傾斜角度が大きくなるように円弧状に形成する）。

【 0 1 6 9 】

また、切目線 K 2 4 は直線状に形成されているとしたが、切目線 K 2 4 - 1 と切目線 K 2 4 - 2 の境界位置（折れ線 C 2 1 の切目線 K 2 4 側の端部位置）で屈曲した構成としてもよく、切目線 K 2 4 - 1 は、背面側から正面側にいくに従い上方となる構成でなくともよく、例えば、切目線 K 2 4 - 1 を水平方向に形成してもよい。同様に、切目線 K 3 4 は直線状に形成されているとしたが、切目線 K 3 4 - 1 と切目線 K 3 4 - 2 の境界位置（折れ線 C 3 1 の切目線 K 3 4 側の端部位置）で屈曲した構成としてもよく、切目線 K 3 4 - 1 は、背面側から正面側にいくに従い上方となる構成でなくともよく、例えば、切目線 K 3 4 - 1 を水平方向に形成してもよい。なお、この点を実施例 2 の切目線 K 2 4'、K 3 4' に適用してもよい。

【 0 1 7 0 】

また、切目線 K 4 2、K 4 3 は背面部 4 0 の外側にいくほど上側となるように傾斜して形成されているとしたが、水平方向（背面部 4 0 の下辺と平行な方向）に形成してもよい。なお、この点を実施例 2 の切目線 K 4 2'、K 4 3' に適用してもよい。

【 0 1 7 1 】

また、切目線 K 2 0 は、切目線 K 2 2 と切目線 K 2 4 とを有しているが、切目線 K 2 2 の代わりに切目線 K 2 4 を左側面部 2 0 の正面側の端部にまで延長させた構成としてもよく、切目線 K 3 0 は、切目線 K 3 2 と切目線 K 3 4 とを有しているが、切目線 K 3 2 の代わりに切目線 K 3 4 を右側面部 3 0 の正面側の端部にまで延長させた構成としてもよい。つまり、切目線 K 2 0 が左側面部 2 0 の背面側の端部から正面側の端部にまで正面側にいくほど上側となるように形成され、切目線 K 3 0 が右側面部 3 0 の背面側の端部から正面側の端部にまで正面側にいくほど上側となるように形成されるようにしてもよい。その場合には、切目線 K 2 0、K 3 0 が直線状としてもよく曲線状としてもよい。

【 0 1 7 2 】

また、上記の説明は、スリーブ状部 5 が、右側面部 3 0、正面部 1 0、左側面部 2 0、背面部 4 0 の順に折れ線を介して連設され、右側面部 3 0 と背面部 4 0 間に糊代部 4 9 が設けられているが、これには限られず、糊代部の位置は、スリーブ状部 5 を構成する互いに隣接する部材間の任意の位置であればよい。

【 0 1 7 3 】

また、スリーブ状部 5 は、4 つの部材が折れ線を介して順に連設された構成であるとしたが、これには限られず、方形状の底面部の各辺から折れ線を介して連設され、スリーブ状部を構成する各部における互いに隣接する部材は糊代部等により接続することにより全体としてスリーブ状を形成するものとしてもよい。

【 0 1 7 4 】

また、上記の説明では、切目線 K 5 を構成する切込みが、主として略へ字状の切込み 2 1 0 と切込み 2 1 0 と線対称の切込み 2 2 0 であるとしたが、切目線 K 5 を構成する切込みを他の形状の切込みとしてもよい。

【 0 1 7 5 】

また、上記の説明においては、スリーブ状部 5 には 4 つの側面部（正面部 1 0、左側面部 2 0、右側面部 3 0、背面部 4 0）が設けられているとしたが、側面部の数はこれには限られず、スリーブ状部は、3 つ以上の側面部を有するスリーブ状であればよい。

【 符号の説明 】

10

20

30

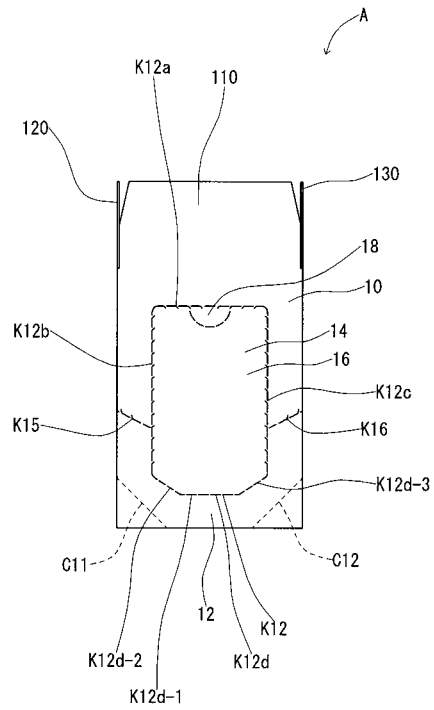
40

50

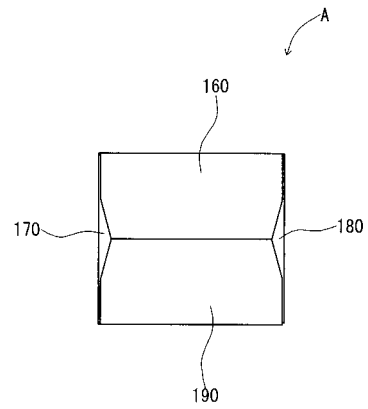
【 0 1 7 6 】

A	包装箱	
5	スリーブ状部	
1 0	正面部	
1 2	枠状部	
1 2 a	下正面部	
1 2 b	上正面部	
1 4	開口蓋部	
1 6	開口蓋部本体	
1 8	押し部	10
1 9	開口部	
2 0	左側面部	
2 2	下左側面部	
2 5	上左側面部	
2 6、3 6	正面側領域	
2 7、3 7	背面側領域	
3 0	右側面部	
3 2	下右側面部	
3 5	上右側面部	
4 0	背面部	20
4 2	下背面部	
4 3	下背面部本体	
4 4	押し部	
4 5	上背面部	
4 6	中央領域	
4 7	右側領域	
4 8	左側領域	
5 0	底面部	
1 1 0、1 4 0	蓋部	
1 2 0、1 3 0	フラップ部	30
2 1 0、2 2 0	切込み	
A - 1	下側構成部	
A - 2	上側構成部	
K 5、K 1 0、K 1 2、K 1 4、K 1 5、K 1 6、K 2 0、K 2 2、K 2 4、K 2 4 - 1、K 2 4 - 2、K 3 0、K 3 2、K 3 4、K 3 4 - 1、K 3 4 - 2、K 4 0、K 4 1、K 4 2、K 4 3、K 4 4、K 4 5	切目線	
C 1 1、C 1 2	罫線	
C 2 1、C 3 1、C 4 1、C 4 2、C 4 3	折れ線	
K R 1 1、K R 1 2	角部領域	
P 1 1、P 1 2、Q 1 1、Q 1 2	途中位置	40

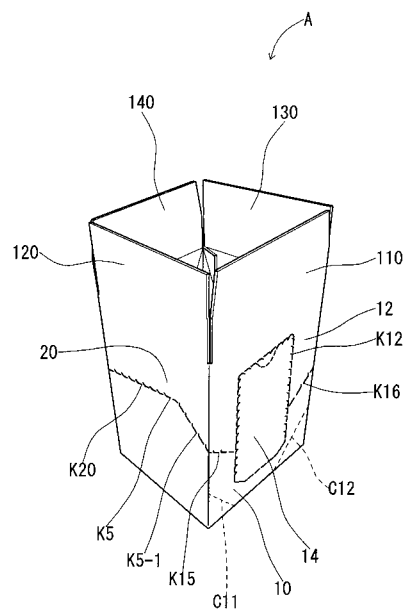
【 図 1 】



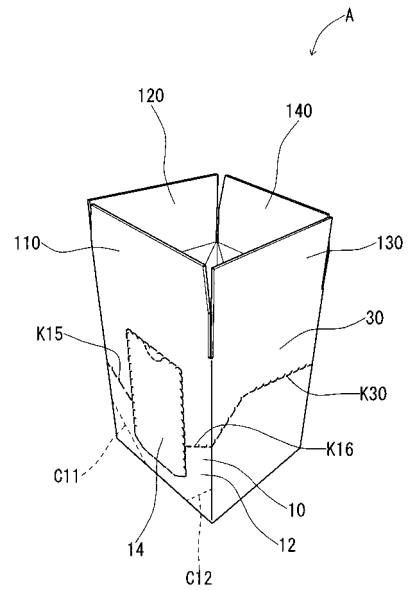
【 図 2 】



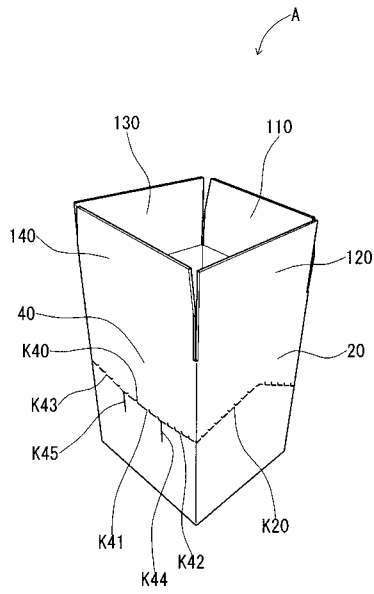
【 図 3 】



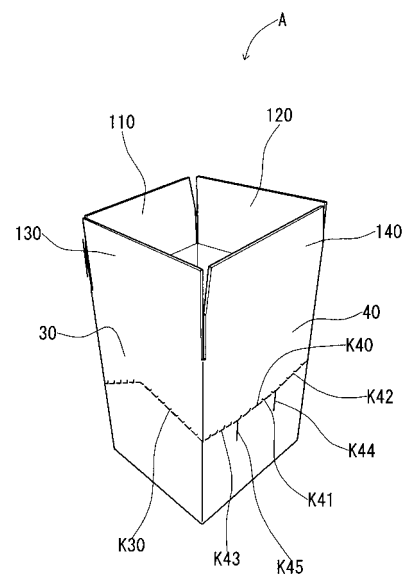
【 図 4 】



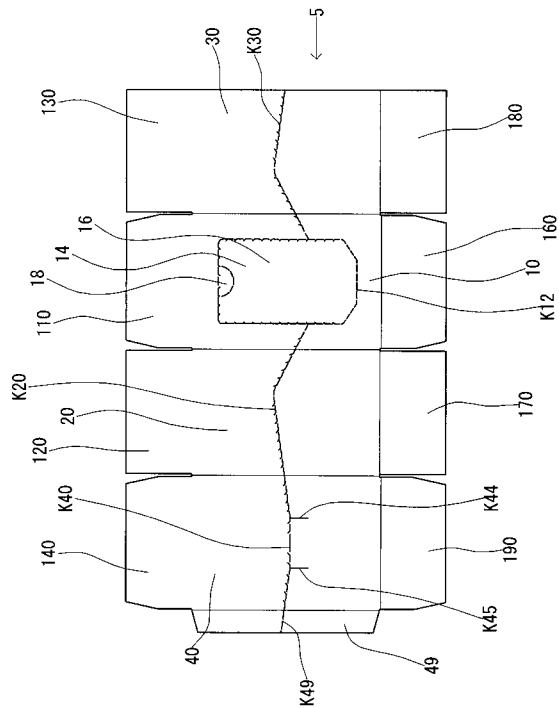
【図 5】



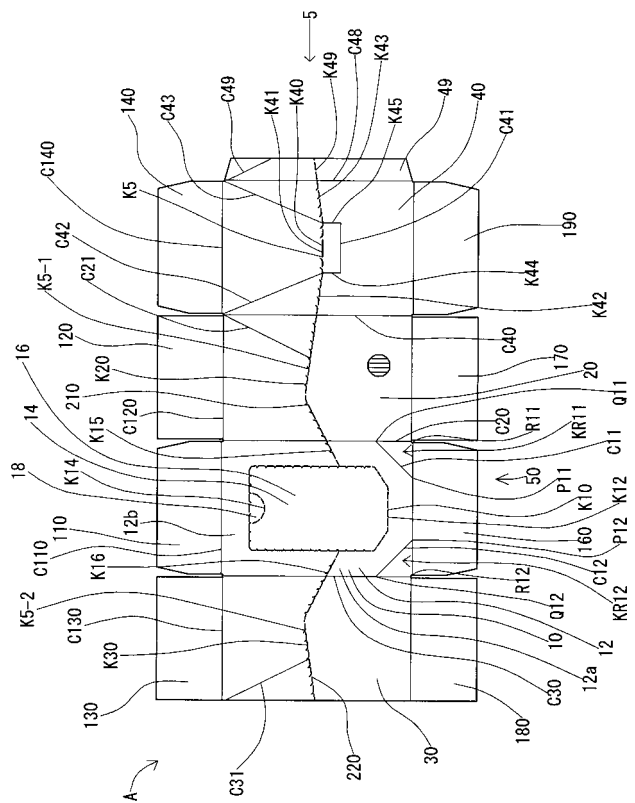
【図 6】



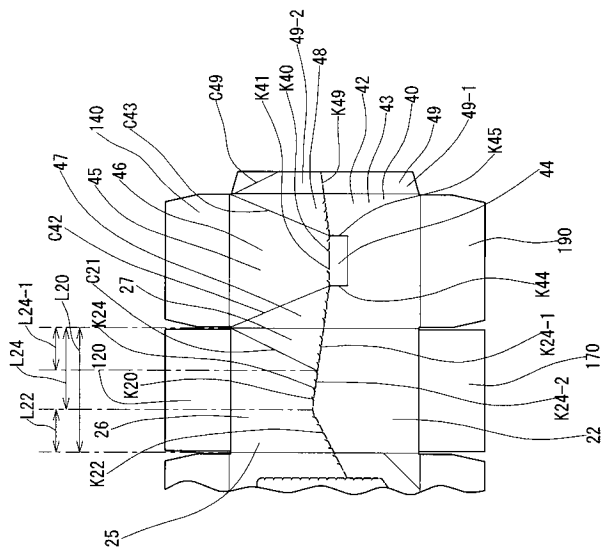
【図 7】



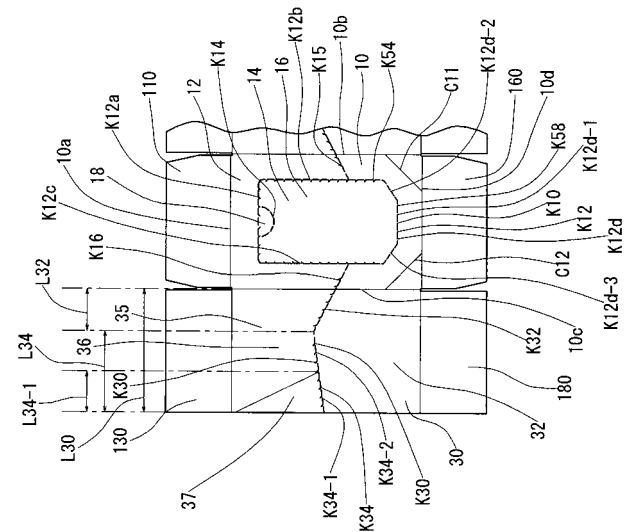
【図 8】



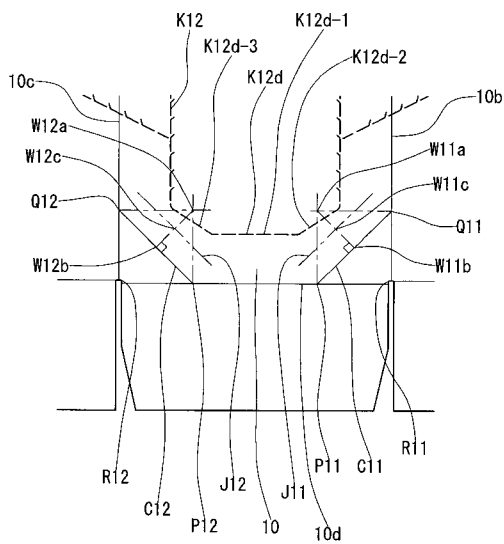
【図 9】



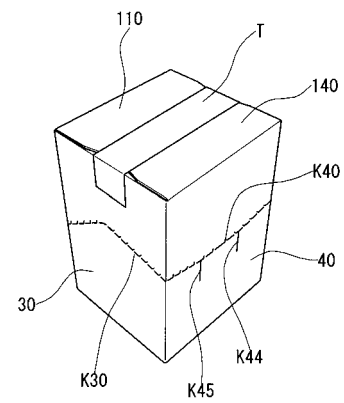
【図 10】



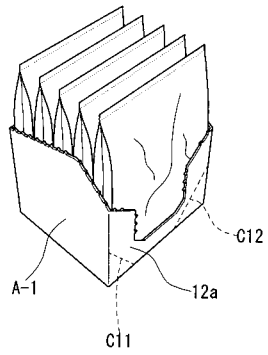
【図 11】



【図 12】



【図 17】



【図 18】

